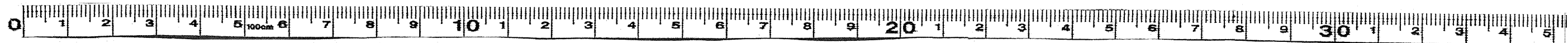


神道
大社
勤務錄

大正奇蹟
昭和文庫
212



各課順序隸屬各係ヲ

院長ヲ

附屬書記ヲ

樞務課ヲ

調査係ヲ

職員係ヲ

庶務課ヲ

當務係ヲ

式務係ヲ

祈禱係ヲ

受付係ヲ

各課係ヨリ宛書ヲ

教職
試験例ヲ

教職
選舉例ヲ

給仕使

丁ヲ

殿守ヲ

出納課ヲ

職員等
教職配當書ヲ

東京出張所定規ヲ

職員出勤心得ヲ

職員布

教心得書ヲ

結社授典品取扱内規ヲ

職員

給料ヲ

教會未設ノ地方擴張者附托方并神

札授布ノ手續ヲ

教職所属願取扱方ヲ

教會職員申付手續ヲ

既設教會職員役負

申請神札教書渡方手續ヲ

出納統理依頼

ノ件^{ナナ} 葬祭取扱心得^{ナナ} 出張所創業

費金額^{ナナ} 教書定價^{ナナ} 委託條件^{ナナ} 入社誓

詞^{ナナ} 結社式祝詞^{ナナ} 連月小例祭諄詞^{ナナ} 出雲系社教院^{ナナ}

給使^{ナナ} 神札本札教書^{ナナ} 神札教書取扱方^{ナナ} 結社校規^{ナナ}

規則^{ナナ} 署各簿雛形^{ナナ} 出版書目^{ナナ} 御靈魂移祝詞^{ナナ}

教會所新設神靈^{ナナ} 教會所設教^{ナナ} 直轄教會教^{ナナ}

鎮齋祭典祝詞^{ナナ} 開講日祝詞^{ナナ} 導路取扱書^{ナナ}

所屬請願書案^{ナナ} 神官教導職令^{ナナ} 神官^{ナナ} 神札守

札下附價格表^{ナナ} 昇給^{ナナ} 教會設立伺^{ナナ} 神札

Blank page with vertical lines.

教院規則

本院ノ組織ヲ改正シテ左ノ課係ヲ置キ各課ノ順序及ヒ隸屬ノ各係相定メ候事

内局

大教主

院長

院監

附屬書記

○ 樞務課 ○

調査係
職負係

庶務課

○ 當務係
新舊係

式務係
受付係

出納課

院長職制及章程

職制

院長 一負

本負ハ大教主ヲ輔ケテ院務ヲ統括ス大教主不在ノ時ハ代理ヲナシ又本負派出所勞ノ時ハ副院長ヲシテ代理セシムヘシ
副院長

本負ハ院長ヲ輔ケテ教務ヲ統括ス院長事故アル時ハ代理スヘシ

章程

院長ハ院務一切ノ事ヲ統括シ事務上ニ於テハ大教主ニ對シテ及覆討議シ各課係ノ意見ヲ咨問スルノ後再考ヲ請フ權ヲ有ス依テ左ニ專決舉行ハ條件ヲ記ス

第一條

世話掛以下ノ補免ハ主任者ノ具申ヲ審查シテ專決シ辞令書ヲ授與スヘシ

第二條

教導職試験ニハ院長ノ職務ヲ以テ臨席シ當否ヲ具申スベシ

第三條

教義講究ニ臨席シテ教旨ヲ講明スヘシ

第四條

各課係ノ日誌ヲ檢閲シテ捺印スヘシ

第五條

教會已結ノ府縣又ハ未結ノ地方ヲ斟酌シテ巡教及擴張ノ計畫ヲナスヘシ

第六條

本院詰員及各專掌教會所長等ノ勤惰能否ヲ

視察シ進退及褒賞懲戒ノ見込ヲ具狀スヘシ

第七條

給仕使丁ノ進退及給料ノ増減ヲ專決スヘシ

第八條

各講社ノ組分願ヲ專決スヘシ

第九條

各課係ヨリ進達スル一切ノ願伺等ヲ調査シ意見アルハ改削又ハ主任者ニ命シテ再考セシムルヲ得若シ主任者ニシテ尚意見アラハ見込ヲ付シテ具申裁決ヲ乞フヘシ

第十條

事務繁閑ニヨリ各課係主任者ノ勤務時間ノ伸縮ヲ專決スヘシ

附屬書記

長

附屬書記一同ヲ統率シ章程ニ照シテ事務ヲ整理ス派出所労等ノ節ハ主任ノ中ヲ指名シテ代理セシメ事務ノ留滞ナカラシムヘシ事務整理上ニハ其責ニ任ス主任。長ヲ輔テ事務ヲ整理シ若シ長事故アルハ長ノ指名ニヨリテ代理スヘシ

長ヲノミテ
リテテ書スベシ

本頁ハ内局機務ノ文書及ヒ諸辭令承諾書褒紙等ヲ清書淨写スル事ヲ擔當スル者トス依テ管掌ノ事項ヲ左ニ示ス

第一節

内局機務ノ文書ヲ認ル件

第二節

内局諸達書又ハ下向書等ヲ掌ル件

第三節

諸辭令及承諾書褒紙等ヲ認ル件

第四節

教導職薦挙狀ヲ認ル件

第五節

各課係ニテ至急ヲ要スル清書物ヲ補助スル件

第六節

院内諸揭示及教會定宿看板ヲ認ル件

第七節

諸新聞紙取扱ノ件

第八節

各官衙及本分局等ニ往復ノ公書ヲ請書スル件

右管掌ノ事務ヲ定ムルニ付所置ノ順序ヲ左

ニ示ス

第一条

内局諸達書又ハ下向書等各課回達ノ上ハ嚴重ニ綴込保存スル事

第二条

本係ハ内局及課長調査職員ノ二係長ノ指圖ニヨリ文書ヲ清書淨寫スヘシ

第三条

諸辞令承諾書及褒紙等ハ清書ノ後印章ヲ捺シテ主任ニ渡スヘシ

第四条

各課係ニテ至急ヲ要スル文書アレバ各課長ノ指圖ニヨリテ補助スヘシ

第五條

餘カアル片ハ諸辭令ヲ認メオキテ不時ノ用ニ備フヘシ

第六條

月誌ヲ作り毎日ノ事務ヲ記シテ院長ノ捺印ヲ受クヘシ

樞務課職制及章程

職制

課長 一員

本課隸屬ノ各係員ヲ統率シ章程ニ照シテ管掌ノ事務ヲ整理ス派出及ヒ所勞等ニテ不在ノ節ハ副長又ハ係長ヲ指名シテ代理トシ事務ノ留滞ナカラシムヘシ

副長 一員

課長ヲ輔ケテ本課ノ事務ヲ整理シ長事故アル并ハ代理ヲナスヘシ

章程

本課ハ内局ノ機務ニ參典シ公書及諸規則各課廻送ノ無例規ノ願伺ヲ調査シ所屬教導職

並ニ職負役負等ノ進退黜陟及ヒ褒賞懲戒等ノ
事務ヲ管掌所弁スル者トス但課中ノ事務ヲ
貳分シテ調査職員ノ貳係ヲ置キ課長總管ノ
事務ヲ大分シテ上下貳款トシ上款ハ課長ノ
意見ヲ具申シテ裁決ヲ得ルノ後施行シ下款
ハ課長ノ意見ヲ以テ施行スルヲ得ヘシ

上款

第一節

教義ニ関スル願同及實款ノ件

第二節

教導職試験ノ件

第三節

建言等取扱ノ件

第四節

隸屬各係ノ章程及ヒ諸般ノ例規ヲ釐
革スル件

第五節

諸規則職制改削ノ件

第六節

所屬教導職及職負役負ハ大世話掛以
上進退黜陟ノ件

第七節

教導職所屬及ニ轉屬ノ件

第八節

所屬教導職及職員役負褒賞懲戒ノ件

第九節

世話掛以下補免ノ件

第十節

教義講究ノ件

第十一節

各課係主任ノ勤惰能否ヲ監察シテ昇
降及褒賞懲罰ヲ具申スル件

第十二節

所屬教導職及職員役負等、本局及ヒ
本院諸達書ヲ送付スル件

○

下款

第一節

諸規則及文書ヲ調査スル件

第二節

無例規ノ文書ヲ調査スル件

第三節

所屬教導職姓名簿ヲ調整スル件

第四節

職員及役員姓名簿ヲ調整スル件

第五節

本院諸員ノ勤惰簿ヲ調査シテ一覽表
ヲ作ル件

右上下二款ヲ定ムルニ付處辨ノ順序ヲ左ニ
示ス

第一條

本課管掌ノ件ニ關スル文書ハ主務ノ係ニテ
意見ヲ付シ指令案ヲ起サシメ課長審査検討
シテ具申裁決ヲ請フヘシ

第二條

教導職試験ハ大教主臨席ニテ課長及ヒ調査
職員兩係長出席成規ノ通取扱フヘシ

第三條

講究及下試験ヲ請フ者アレハ院長ノ臨席ヲ
請ヒ又ハ課長以下出席シテ取扱フヘシ

第四條

教養上ノ疑問ニ答ヘ及ヒ他人ノ著書中又ハ
新聞紙上我教旨ヲ駁論スル者アレハ審査説
明書ヲ草シ具申裁決ノ上舉行スヘシ

第五條

世話掛以下役員ノ辞令書ハ院長ヨリ授與ス

へし

第六條

教導職及び職員役員(大世話掛以上)ノ辭令書ハ大教主ヨリ授典スヘシ

第七條

教導職及職員役員ノ褒賞及ヒ懲罰スヘキハ能ク其事實ヲ調査シテ裁決ヲ請フヘシ

第八條

無例規ノ願伺ヲ調査シ將來ノ例規ヲ起草シテ關係ノ課係ニ照議討論スルヲ得ヘシ

第九條

管掌ノ事務ニ付質疑シナス者アレハ面會又ハ文通シテ説明スヘシ

第十條

本課管掌ノ事務ニ付テハ裁決後ト當氏内局ニ至リ再三意見ヲ陳述シ改訂ヲ請フヲ得ヘシ

調査係職制及章程

職制

係長

一名

本係ノ職員ヲ統率シ章程ニ照シテ事務ヲ

整理ス派出所等ノ第ハ主負ノ中ヲ指名
シテ代理セシノ事務ノ留滞ナカラム可シ
係中ノ事務整理ニ付テハ其責ニ任ス

主任

係長ヲ輔ケテ本係ノ事務ヲ整理シ若係長
事故アルハ長ノ指圖ニヨリ代理スヘシ

章程

本係ノ事務ハ教義及ヒ各官衙本分局各教會
等ニ関スル文書ヲ公布院規ニ照シテ起草或
ハ撰討シ又諸規則ヲ起草改刪スル等ノ事ヲ
擔當スル者トス依テ管掌ノ事項ヲ左ニ示ス

第一節

教義ニ関ス一切ノ件

第二節

試験及講究ノ件

第三節

官衙及ヒ本分支局各教會等ニ往復ス
ル文書ヲ起草或ハ調査スル件

第四節

本院ノ例規及各教會等ノ章程職制
等其他後來ノ規則トナル文書ヲ起草
又ハ調査スル件

第五節

所屬教導職及職員役員ノ進退懲降等
ニ褒賞懲戒ニ関スル事ヲ調査スル件

第六節

無例規ノ願同ヲ調査シ後來ノ例格ヲ
定ムル件

第七節

各官衙ノ公布諭達及本局諸達本院ノ
例規各教會所ノ章程講社ノ私約等ノ
文書ニミテ調査ニ對照スヘキハ本係
ニ備オリ件

第八節

講習會事務ヲ掌ル件

右管掌ノ事務ヲ定ルニ付處置ノ順序左ニ示
ス

第一條

教義ニ関スル願同及質問等ハ教旨ニ照シテ
意見ヲ付シ指令案ヲ作ルヘシ

第二條

試験ヲ請フ者又ハ試験ナスヘキ見込ノ者ヲ
職員係ヨリ照議スル片ハ調査シ具申裁決ノ
上試験場ノ事ヲ擔當スヘシ

第三條

建言書ハ審査シテ其当否ヲ論シ各課係ニ関
係ノ件ナレハ照議シテ指令案ヲ作ルヘシ

第四條

各課係ニテ起草シタル例文外ノ官衙及ニ本
分支局各教會等ニ往復ハ文案ヲ調査改削シ
意見アレハ陳述スベシ

第五條

本院ノ例規及各教會所ノ章程等改削又ハ新
規ニ設クヘキ者ハ起草スヘシ

第六條

所屬教導職及ニ職負役負等ノ褒賞懲戒ニ関
スル事ハ内局ノ下問ニ應ニ或ハ職負係ノ照
議ニヨリテ調査シテ意見ヲ陳述スベシ

第七條

無例規ノ類同ハ各課係ノ照議ニ因テ調査檢
討シテ意見ヲ付箋スベシ

第八條

官衙ノ公布諭達及本局ノ諸達書本院ノ例規
其他各教會所ノ章程講社ノ私約等總ニテ調
査上對照ニ必要ナル文書ハ本係ニ本書又ハ
淨写ニテ備置クヘシ

第九條

管掌ノ事務ニ付質疑ヲナス者ハ面諭又ハ通書シテ説明スベシ

第十條

日誌ヲ作り毎日ノ事務ヲ記シ院長ノ捺印ヲ受クベシ

第十一條

前條ノ外管掌ノ事務ハ總テ樞務課章程中ニ掲クル條件ニ照シテ處置スベシ

第十二條

本係管掌ノ事務ニ付テハ裁決後ト雖モ凡局

ニ至リ更ニ意見ヲ陳述スルヲ得ベシ

第十三條

月次講習會ニ臨席シテ講習者ノ所説教育ニ違背及趣意ノ貫不貫所説ノ善惡ヲ聴記シテ
開申スベシ

職負係職制及章程

職制

係長 一名

本係ノ主負ヲ統率シ章程ニ照シテ事務ヲ整理ス派出所労等ノ第八主負ノ中ヲ指名

シテ代理セシノ事務ノ留滞ナカラシムベ
シ係中ノ事務整理ニ付テハ其責ニ任ス
主任

係長ヲ輔ケテ本係ノ事務ヲ整理シ若係長
事故アル片ハ長ノ指圖ニヨリテ代理スバ
シ

章程

本係ハ所屬教導職及職員役員等ノ進退黜陟
其他褒賞懲戒等ノ事ヲ擔當スル者トス依テ
管掌ノ事項ヲ左ニ示ス

第一節

所屬教導職ノ進退黜陟ノ件

第二節

職員及役員ノ進退黜陟ノ件

第三節

教導職所屬及轉屬ノ件

第四節

所屬教導職姓名簿ヲ調整スル件

第五節

職員及役員ノ姓名簿ヲ調整スル件

第六節

所屬教導職及職員役員ノ褒賞懲戒ノ

件

第七節

本院詰負勤情表ヲ調ヘ一覽表ヲ作ル
件

第八節

所屬教導職ハ本局達書送付ノ件

第九節

所屬教導職及職負役負ハ本院達書ヲ
送附ノ件

右管掌事務ヲ定ムルニ付處置ノ順序ヲ左ニ
示ス

第一條

所屬教導職ノ補負アレハ本人ヲ喚起又ハ辭
令書送付等ノ運ヲナスベシ

第二條

所屬教導職又ハ新ニ教導職志願者ノ試験ヲ
請フ者又試験ヲナスヘキ見込ノ者アレハ調
査係ニ照議シ具申裁決ノ上ハ本人喚起等ノ
運ヲナスヘシ

第三條

職負及役負ノ薦挙状ヲ受理シ例規ニ照シテ
意見ヲ付シ其手續ヲ運フヘシ

第四條

教導職所屬及轉屬ノ文書ヲ受理シ例規ニ照シテ處置スベシ

第五條

職員及役員ノ補免教導職所屬承諾等裁決ノ上ハ辭令及承諾書ヲ附屬書記ニ付シテ清書スベシ

第六條

職員及役員ノ辭令書ハ本人ヲ喚起シテ授典ノ手續ヲナシ或ハ郵送スル手續ヲナスヘシ教導職所屬及轉屬ノ承諾書ハ一切郵送スヘシ

シ

第七條

所屬教導職及職員役員ノ姓名簿ヲ調整シテ補免昇級ノ年月日ヲ詳明ニスヘシ

第八條

職員及役員ノ薦挙狀例規ニ違フハ或ハ面會シテ其事由ヲ懇論シ或ハ付箋シテ本人ニ送付スヘシ其特別ノ詮議ヲ要スルハ意見ヲ付シテ裁決ヲ請フヘシ

第九條

所屬教導職及職員役員ノ進退黜陟并褒賞懲

戒スヘキ者ハ其事實ヲ取調ヘ意見ヲ付シテ
調査係ニ照議シテ具申裁決ヲ請フベシ

第十條

毎月本院詰員ノ勤惰簿ヲ検査シ六月毎ニ
六月十二出頭退出ノ時刻所勞派出張教等ノ
変數ヲ計算シテ一覽表ヲ作りテ上申スベシ

第十一條

管掌ノ事務ニ付質疑ヲ請フ者ハ面諭又ハ通
書シテ説明スベシ

第十二條

所屬教導職ノ昇級新補及試補ノ薦挙ハ例規

ニ照シテ薦挙狀ヲ作り進達ノ手續ヲ運フベ
シ

第十三條

日誌ヲ作り毎日ノ事務ヲ記シ院長ノ捺印ヲ
受クベシ

第十四條

前條ノ外管掌事務ハ總シテ樞務課章程中ニ
掲クル條件ニ照シテ處置スベシ

第十五條

本係管掌ノ事務ニ付テハ裁決後ト雖モ内局
ニ至リ更ニ意見ヲ陳述スルヲ得ベシ

第十六條

詰負所勞及ニ事故ニテ伺届スルハ當務係ニテ伺申又ハ伺届ノ取扱シナスノ後該書面ヲ回送スルヲ受理シ勤惰簿ニ其事故ヲ記スヘシ

庶務課職制及章程

職制

課長 一員

本課隸屬ノ各係員ヲ統率シ章程ニ照シテ管掌ノ事務ヲ整理ス派出所勞等ニテ不在

ノ節ハ副長又ハ係長ヲ指名シテ代理トシ事務ノ留滞ナカラシムヘシ

副長 一員

課長ヲ輔ケテ本課ノ事務ヲ整理シ長事故アル片ハ代理シナスベシ

章程

本課ハ各出張所教會所及各講社ヨリ進達スル通常ノ領伺届等ノ諸事ヲ管掌所兼スル者トス但課中ノ事務ヲ四分シテ當務式務祈禱受付ノ四係ヲ置キ課長之ヲ總管シテ其責ニ任ス而シテ課長總管ノ事務ヲ大分シテ上下

二款トシ主款ハ課長ノ意見ヲ具申シテ裁決
ヲ得ルノ後施行シ下款ハ課長ノ意見ヲ以所
分スルヲ得ヘシ

上款

第一篇

出張所教會所託教所等ノ開閉ニ關ス
ル件

第二節

軟供ニ關スル件

第三節

寄付ヲ受理シ及ヒ褒賞スル件

第四節

教會擴張又ハ巡教ニ付官衙及本分局
等ニ願伺照會ノ件

第五節

各專掌及各教會所長以下諸員進退ノ
件

第六節

教會定宿取扱ノ件

第七節

結社式執行委任ノ件

第八節

説教派出及巡教日數増減ノ件

第九節

救恤慶吊ノ件

第十節

例式外ノ祭祀ノ件

第十一節

祭祀配役及説教師ヲ定ムル件

第十二節

神呪胎息傳授ノ件

第十三節

金穀献納ノ講参取扱ノ件

第十四節

隸屬各條ノ章程及諸般ノ例規ヲ釐革
スル件

第十五節

神殿裝束品及祭式用其他課係ノ物品
ノ新調及修繕ノ件

第十六節

各出張所教會所及專掌ニテ手傳人雇
入ニ関スル件

下款

第一節

課名ヲ以テ本分局各教會一所等、照會ノ件

第二節

杵築村小教會開設ノ件

第三節

結社願ヲ聞届ル件

第四節

鑑札木札標旗等ヲ各教會所各專掌及信者等、送付授與スル件

第五節

結社後詭教有無ノ件

第六節

教會所及教會一覽表ヲ製理スル件

第七節

例規アル祭式ノ装束敷設ノ件

第八節

鑑札木札及標旗ヲ認ル件

第九節

結社署名簿ヲ整頓保存スル件

第十節

入社人本社参拝ノ件

第十一節

祭日中參拜ノ教導職及職員役員拜禮ノ件

第十二節

受付日誌ヲ捺シテ捺印スル件

第十三節

教書及規約手續授付ノ件

第十四節

各教會所及講社、諸連書ヲ送付スル件

右管掌ノ事務ヲ定ムルニ付處辨ノ順序ヲ左ニ示ス

第一條

本課管掌ノ件ニ關スル文書ハ主務ノ係ニテ意見ヲ付シ指令案ヲ起サシメ課長審査検討シテ具申裁決ヲ請フヘシ

第二條

献供願ハ裁決ノ後献供式執行及神札授與誘導人、慰勞金又ハ賞品ヲ與フル手續ヲナスヘシ

第三條

本院各教會所等ハ金穀又ハ物品ヲ寄付スルハ例規ニ照シテ褒賞スル手續ヲ遵フヘシ

第四條

教會結社委任ハ本人ノ請願又ハ委託スヘキ見込ヲ具申シ裁決ノ後本人參院スルハ院長ヨリ委任狀ヲ渡シ否ラサルハ郵送スヘシ

第五條

所屬教導職及職員役負其他入社員中ニテ天災又ハ非常ノ難ニ遇フ者アレバ其人ニヨリテ救恤取扱方ノ意見ヲ具申スヘシ

第六條

所屬教導職及職員中又ハ役員中重立タル者ニテ年賀誕生嫁娶及帰幽長病等ノ者アレハ

其人ニヨリテ慶弔ノ意見ヲ具申スヘシ

第七條

派出説教ヲ請フ中ハ院務ノ繁閑ト請願ノ事情トヲ對照斟酌シテ意見ヲ付シ且説教師ヲ指名セサルハ其人ヲ定メ具申スヘシ

第八條

各教會所及講社又ハ社外ノ者ヨリ教會ニ関スル願伺届又ハ照會等ノ件ハ上款下款ノ件ニ照シ或ハ意見ヲ具申シテ裁決ヲ請ヒ或ハ課名又ハ主任ノ係ヨリ直ニ回報スヘシ

第九條

課中管掌事務ト雖氏例文外ノ官衙本分局及各教會ニ関スル文書又ハ重大ノ件後來ノ例トナルヘキハ意見ヲ付シテ調査係ニ照議スヘシ

第十條

無例規ノ願伺又ハ照會等ハ意見ヲ付シテ調査係ニ回シテ意見ヲ問フノ後處置スヘシ

第十一條

献供及入社人參拝等本社ニ関スル事件ニ付院名ヲ以テ照會ヲナス所ハ院長ノ指圖ヲ請フヘク課名又ハ係ニテスルハ直ニ照議スベシ

第十二條

臨時ニ雇入ヲ要シ又ハ雇入ノ賃金ハ必出納課ニ照議シテ處分スベシ

第十三條

各出張所教會所託教所等所在ノ地名所長各課係長ノ姓名及出願許可開設ノ年月ヲ記シテ一覽表ヲ作りオクベシ

第十四條

管掌ノ事務ニ付質疑ヲナス者アレハ面會又ハ文通シテ説明スベシ

第十五條

本課及四係関掌ノ事務ニ付清書淨写スヘキ
文書ハ主任中繁劇又ハ少負ニテ差支ノ節ハ
樞務課ニ照會シテ付屬書記ノ補助ヲ請フヘ
シ

第十六條

本課管掌ノ事務ニ付テハ裁決後ト虽モ内局
ニ至リ再三意見ヲ陳述シテ改正ヲ請フヲ得
ベシ

第十七條

管掌ノ事務ニ付例規アル願同等ハ課長ヨリ

直ニ院長ヲ經テ進退裁決ヲ請フベシ

當務係職制及章程

職制

係長 一員

本係ノ主負ヲ統率シ章程ニ照シテ事務ヲ
整理ス洵出所勞等ノ節ハ主負ノ中ヲ指名
シテ代理セシノ事務ノ留滞ナカラシムベ
シ係中ノ事務整理ニ付テハ其責ニ任ス
主任

係長ヲ輔ケ本係ノ事務ヲ整理シ若係長事

故アル中ハ長ノ指圖ニヨリテ代理スヘシ
章程

本係ノ事務ハ教會所開閉及巡教ニ關スル諸
件並ニ寄付等ノ事ヲ擔當スル者トス依テ管掌
ノ事項ヲ左ニ示ス

第一節

出張所及教會所等開閉ノ件

第二節

寄附ヲ受理シ及褒賞ノ件

第三節

教會擴張ニ付官衙及本分局等ニ願伺

照會ノ件

第四節

各專掌及各教會所長以下進退ノ件

第五節

教會定宿ニ關スル件

第六節

說教派出及巡教日數増減ノ件

第七節

救恤慶吊ノ件

第八節

各出張所教會所及專掌ニテ年傳人崔

入ニ関スル件

第九節

杵築村少教會開設ノ件

第十節

教會所一覽表ヲ作ル件

第十一節

各出張所教會所及講社、布達又ハ諭達書送付ノ件

右管掌ノ事務ヲ定ムルニ付敷置ノ順序ヲ左ニ示ス

第一條

出張所教會所及說教所等ノ開閉ハ例規ニ照シテ其筋、出張又ハ届等ノ手続ヲ遵フベシ

第二條

寄附願ヲ受理シ及各出張所教會所等ニ関スル寄付ノ褒賞ヲ取扱フベシ

第三條

各出張所教會所長及專掌ノ進退ノ事ヲ管掌シ意見ヲ具申シテ裁決ヲ請フヘシ

第四條

教會定宿願ハ例規ニ照シテ調査シ指令案ヲ作リテ具申スベシ

第五條

前條ノ外本係管掌ノ事務ハ總シテ庶務課章程中ニ掲タル條件ニ照シテ處置スベシ

第六條

日誌ヲ作り毎日ノ事務ヲ記シ院長ノ捺印ヲ受クヘシ

第七條

管掌ノ事務ニ付質疑ヲナス者ハ面詢又ハ通書ニテ説明スベシ

第八條

本係管掌ノ事務ニ付テハ裁決後ト密に内局

ニ至リ更ニ意見ヲ陳述スルヲ得ヘシ

第九條

詰負ノ所及ニ事故ニテ願届スルハ當務係ニテ受理シ開申又ハ聞届済ノ上ニテ當務係ハ該書面ヲ職負係ニ回送スヘシ

式務係職制及章程

職制

係長 一員

本係ノ主負ヲ統率シ章程ニ照シテ事務ヲ整理ス派出所勞等ノ節ハ主負ノ中ヲ指シ

テ代理セシノ事務ノ留滞ナカラシムヘシ
係中ノ事務整理ニ付テハ其責ニ任ス
主任

係長ヲ輔ケテ本係ノ事務ヲ整理シ若係長
事故アルハ長ノ指圖ニヨリテ代理スベ
シ

章程

本院ハ祭祀結社及ヒ軼供其他葬儀等ニ関ス
ル一切ノ儀式ヲ擔当スル者トス依テ管掌ノ
事項ヲ左ニ示ス

第一節

祭祀ニ関スル件

第二節

本院祭日配役及訖教師ヲ定ムル件

第三節

神呪及胎息式傳授ノ件

第四節

結社願ヲ受理シテ執行ノ件

第五節

結社式執行委任ノ件

第六節

神殿装束品及祭式所用ノ物品新調及

修繕ノ件

第七節

結社式後説教執行ノ件

第八節

教會一覽表ヲ製造スル件

第九節

鑑札木札標籙等ヲ各教會所各專掌及
信者ニ送付授與スル件

第十節

臨時雇ヲ増減シテ鑑札木札ヲ認メシ
ムル件

第十一節

結社署名簿ヲ整頓保存スル件

第十二節

入社本社参拝ノ件

第十三節

祭日中参拝ノ教導職及職員役員拜禮
ノ件

第十四節

献供ニ関スル件

第十五節

各教會所ノ御分靈願ノ件

第十六節

神樂奏上願奉幣等ノ件

第十七節

殿守ハ式務祈禱ノニ係ニテ管屬ノ件
右管掌ノ事務ヲ定ムルニ付處置ノ順序ヲ左
ニ示ス

第一條

結社式願ハ署名簿ヲ調査シ例規ニ違ハサル
者ナレハ課長ノ捺印ヲ受ケテ執行スベシ

第二條

教會一覽表ヲ製造シテ新ニ結社スレハ談講

社ノ地所番号及結社式執行ノ年月日ヲ記載
スベシ

第三條

結社初穂及木札標籤鑑札書替料ハ係中ノ帳
簿ニ記シ出納課ハ納ル片ハ受取証トシテ該
課主任ノ小印ヲ取オクヘシ

第四條

結社式執行後ハ説教ノ有無ニ關セズ必社員
心得ノ為ニ教會ノ要件ヲ説諭スヘシ

第五條

祭式及諸禮式ニ所用ノ物品ハ總シテ本係ノ

管掌スル所ナレハ物品目録ニ記載シ散逸セ
カル様管護スヘシ

第六條

日誌ヲ作り毎日ノ事務ヲ記シ院長ノ捺印ヲ
受クヘシ

第七條

本係管掌ノ事務ニ付質疑スル者アレハ面諭
又ハ文通シテ説明スベシ

第八條

神呪及胎息式傳授ハ所屬教導職ニ限レハ若
所屬外又ハ役員タリト雖モ教導職ナラサル

者ノ出願スル中ハ其事由ヲ示シテ願書ヲ却
下シ所屬教導職ナレハ許シテ害ナキ仁ナリ
ヤ否ヤヲ調査シテ裁決ヲ請フヘシ

但胎息術ハ社中未試補ト雖モ許シテ害ナ
キ者ハ本文ノ通取扱フベシ

第九條

金穀ヲ献納スル普通講系ノ外ハ例規又ハ先
格ニ照シテ擔當處置スベシ

第十條

本係管掌ノ事務ニ付テハ裁決ノ後ト雖モ直
ニ内局ニ至リ更ニ意見ヲ陳述スルヲ得ベシ

第十一條

前條ノ外本係管掌ノ事務ハ總シテ庶務課中ニ掲ル條件ニ照シテ處置スベシ

第十二條

献供ニ関スル願同ハ例規又ハ無例規ナレハ意見ヲ付シテ具申シ其本社ニ献備スヘキハ照會シテ其手續ヲ運フベシ

第十三條

講社ヨリ組分ヲ願フ時ハ見込ヲ付シテ調査係ニ照議シ院長ノ裁決ヲ請フベシ

第十四條

殿守ヲ使役セント片ハ祈禱係ニ照議シテ取扱フベシ

祈禱係

職制章程從來ノ通

受付係

職制章程從來ノ通

書記係

此係ハ廢シテ自今各課係ニ管スル清書淨寫モノハ惣シテ其係ニテ處弁シ若係員ニテ弁シカタキ片ハ付属書記ノ補助ヲ請フ

カ又ハ臨時人ヲ雇入ルベシ

受付係職制及章程

職制

係長 一員

本係ノ主任ヲ統率シ事務ヲ統管シ章程ニ照シテ受付往復一切ノ事ヲ管理ス本務上ニ於テハ其責ニ任ス派出所等ニテ不在ノ節ハ代理ヲ定メ事務ヲ整理スヘシ

主任

長ヲ輔ケテ本務ヲ整理ス若係長事故アリ

テ不在ノ中ハ其差圖ニ因テ代理スヘシ

章程

本係ハ三課各係ノ指揮ニ因テ文書ヲ送達シ或ハ他方ノ願伺届等ノ諸件ヲ受付タルコトヲ掌ル因テ在ケ糸ヲ掲テ取扱方ノ要旨ヲ示

第一條

参院ノ皆ハ官職アルハ勿論卑賤ノ者ト虽モ惣シテ丁寧懇切ヲ尽シテ應待スヘシ

第二條

諸方ヘ送致ノ文書及講社ノ指令等ハ時日ヲ怠ラス速ニ送致シ送達済ノ訃書ヲ以テ前日

分ヲ翌日ニ出書ノ課係ノ捺印ヲ受ケオクヘ
シ

第三條

願同届ノ文書ハ惣ニテ受付ノ年月日ヲ記シ
本人又ハ代人出願或ハ郵便飛脚等ヲ詳記捺
印シテ其主任へ出スヘシ

第四條

諸方ヨリ到来ノ郵書其他糊封ノ文書ハ開緘
シテ主任へ出スヘシト密氏大教主院長始其
他職負ノ名宛書及ヒ親展ト記載アル分又建
言ニ關スルハ其終本人ニ達スヘシ

第五條

教會結社ノ手統教會所設立次序役負薦挙状
書式等惣シテ願同届書ノ体裁ヲ来問スル者
アレハ懇切ニ教示スベシ

第六條

願同ハ二枚ツ、届書ハ一枚ヲ出サスベシ

第七條

杵築講社小教會出張願ハ別ニ願書ヲ要セス
願意書苗簿ニ記シテ主任へ出スベシ

第八條

院内ノ諸規則ハ常ニ熟知シ来問者ニ對シ暖

味ノ答ヲナスヘカラス

第九條

参院ノ信者願同ヲナシ滞泊スル者ハ必住所姓名ハ勿論止宿所ヲ聴キテ日記ニ記載スヘシ

第十條

小教會所用ノ物品貸渡スルハ主任ノ認可ヲ得テ出入シ散逸破損ノ害ナキ様ニ注意スベシ

第十一條

受附日誌ハ当日退出前課長ノ捺印ヲ受リヘシ
事務繁劇ナルモ翌日ヨリ遅ク出スベカラス

第十二條

神殿拝禮願ハ祈禱係ニ通知スベシ

第十三條

講社其他ニテモ旅中不慮ノ災難ニ遇ヒ又ハ懸然ナル事体アル者ノ参ル片ハ篤ト其次第ヲ聞キ當務係ニ通知スベシ

第十四條

官吏教導職及講社役員大世話掛以上ノ者参院スル片ハ定席ニ誘引シ来由ヲ聞キ面會シ

請フ職負ニ通知スベシ

但烟艸及茶ヲ出ス等其人ニ因テ注意シ
給仕使丁、命シ其扱ヲナスベシ

第十五條

寄附ノ物品ハ直ニ神前ニ供シ金田ハ書面ト
共ニ當務係、出シ其指圖ニ因テ寄附人ノ取
扱方ヲナスベシ

但書面ヲ持参セサルハ願意簿ニ記載シテ
出スベシ

第十六條

面會所受付所等ハ係ノ管轄部トシ掃除ハ勿

論次ノ用心ヲ大切ニスベシ

第十七條

本係ノ文書ハ左ノ目錄ノ數冊ト定メ保存管
護スヘシ若書冊ヲ加フレハ必其同ヲ面々出
ワベシ

一 受付職制及章程

一日誌

一 教會結収手續概要

一 教會規約

一 教會所設立願面書式

一 役員薦舉書式

一引受物品目六

一郵便一時扱帳

一寄附褒賞規則

各課係ヨリ職負役負ニ宛書

世話掛以下 殿

教會係並講長以下大世話掛以上 殿

輔教督事 殿

副教長以上 殿

文例

世話掛以下

有之度。相成度。可有之 及而依頼

教會係講長及大世話掛以上

相成候様致度 又ハ相成度可被成 及而

依頼

輔教督事

被成度 可被遣 而依頼申

教長

被成下度 可被下 而依頼申上

教導職試驗例規

第一條

神道教導職志願及ヒ昇級申立ツヘキ見込アル者ハ試験ノ上撰舉スベシ

但遠隔ニテ試験ノ為来院難致事情アル者ハ該國ニテ當教會所属教導職ニテ試験シ擔當シテ差支ナキ者ニ命シテ試験ヲナサシメ又ハ著書ナキ者ハ講録ヲ出サシメテ當否ヲ議決スベシ右教會上有功ヲ以テ選舉スルハ此限ニアラス

第二條

試補ハ教憲三條ノ韓解一說ヲ以テ試験スヘシ

但當教會ニテハ別ニ教旨ノ韓解ヲナサシムベシ

第三條

本職選舉及ヒ昇級ハ試験課程ノ通試験スベシ

第四條

試験場ハ大教主臨席院長及樞務課長調査係長職員係長ニテ試験ヲナスベシ

但課係長不在ナレハ代理ノ者ニテ試験スヘシ

第五條

著書又ハ講録ヲ以テ學術ヲ検査シ別ニ講説
ヲナサ、ル者ハ前条記名ノ者ニテ当否ヲ議
シテ具申裁決ヲ請フ一シ

第六條

所屬教導職ハ当職ノ拜命滿二年毎ニ試験シ
テ昇級ノ可否ヲ定ムベシ

但自己ノ志願ヲ以テ昇級試験ヲ請フ者ハ

此限ニアラス

教導職試験課程 明治七年九月教部省ニテ
府縣ニ達ノ分

第一試

三條教則講義

第二試

探題

講義

十七説之内

第三試

探題

説教

十七説之内

第四試

詔勅公布類對同

第一試

十三級

十四級

第二試

十一級

十二級

第三試

及級

十級

第四試

七級

八級

選舉法毎試三等ニ分テ甲ヲ十三級十一級九

級七級トシ乙ヲ十四級十二級十級八級トシ
丙ハ當日ノ選舉ヲ許サスモ第一試ニハ乙
ノ選ニ中ル者ハ之再試シ必ス甲ノ選ニ中ル
後始メテ第二試ヲ受ルヲ得ヘシ以下之ニ
擬リ又第二試以上ヲ受ケントスル者ハ第一
試ヨリ通試スヘシ此條品行入望ヲ以テ選ニ
中ル者ハ此限ニ非ス

十七說

皇國々體說 道不可變說 制可隨時說
皇政一新說 人異禽獸說 不可不學說
不可不教說 萬國交際說 國法民法說

律法沿革說 租稅賦役說 富國強兵說
產物制物說 文明開化說 政體各種說
役心役形說 權利義務說

教導職撰舉例

第一條

教導職撰舉ハ試驗或ハ實地有功之廉ヲ以テ
試補及補昇級等允テ左ノ條ニ準拠シテ取扱
フベシ

第二條

教導職撰舉スルハ試験ハ試験ノ上保証書五

通及履歷書ヲ出サシメ管轄ノ府縣ニ照會シ
テ然ル後神道副總裁宛ニテ神道事務局ニ撰
挙スベシ

但保証書始地方廳照會試補撰挙状ハ書式
ノ通ニ認ムベシ

第三條

試補ヨリ本職並ニ昇級撰挙ハ内務卿宛ニ撰
挙シ神道副總裁ニ副書シテ神道事務局ヲ經
由シテ進達スベシ又モ試補ヨリ本職ニ申立
之第ハ履歷書ヲ添テ進達スベシ
但撰挙状ハ書式ノ通ニ認ムベシ

第四條

権訓導ヨリ大講義マテ順次昇級ヲ申立ルハ
學術履歷等ヲ記サスシテ撰挙状ヲ出スベシ

第五條

中講義ヨリ正権大講義ニ撰挙スルハ必ス本
人ノ著書又ハ講録ヲ添テ進達スベシ
但著書又ハ講録ハ一冊ニテ可ナリ

第六條

新補及昇級試補共撰挙状ハ必三通ツ、進達
スベシ又試補撰挙ニハ保証書履歷書及地方
廳回答書必三通ツ、料紙美濃紙又ハ同寸法

ノ紙ニ認メテ差出スベシ

但本職撰挙ニ付神道副總裁ニ添書ハ一通
タルベシ

第七條

権少教正以上ニ昇級申立ルハ撰挙状ニ學術
性行履歴等ヲ記スベシ

第八條

非神官ノ者ニテ試補撰挙スルハ教會上有功
其他教導職タラシメサレハ講社ノ差支アル
素等ヲ詳記シテ特別ノ詮議アルヘキ旨ヲ以
テ申立ツベシ

第九條

撰挙状ハ數名アレハ一紙ニ認メ権大講義以
上及越級ノ者ニ限リ別紙ニ書スベシ

第十條

権少教正以上ハ副總裁宛ニ書面進達スベシ
但申立書ハ書式ニ照準シテ取扱ヘシ
教導職撰挙状改正書式押紙ハ綴濃紙又ハ洞

撰挙状

何府^{華族}何國何郡何柵何番地居住
附籍ハ^{華族}平民何某附籍^{平民}ト
書シ子弟ハ何某長次男又ハ弟ト書

スベシ

神官并ニ官國幣社ノ神官ハ此所ニ何

社何官ト記シ府縣社以下ノ分ハ何縣

何國何郡何村何社何官ト記スヘシ

何職ニ明治何年何月計職申付何職姓名

明治何年何月

學術

神道ヲ主トス其餘ハ長アレハ

性行

人各異ナル者ナレハ丁咄

履歷

維新以後ニ係ル者ヲ

右三項權訓導以上大講義マテハ掲載ニ

及ハズ

右權此權大講義以上及ニ越級申立ル者ハ朱書所

標當器之者ニ付新被成下度此段奉願候也

但權少教ニ己上ハ新被下被命候掃申立

被下度此段市領申候也ノ文ニ替フベシ

一等直轄出雲教會長職代理何誰代理教會長

スハ

年月日

職名何誰印

内務卿何誰殿

試補撰舉狀書式

何府以下前書ニ同シ

何誰

明治何年何月

右者

非神官ノ者ハ教會上有功又ハ教導職ナ
ラサレバ講社取締向ニ差支等ノ事由ヲ

記以教義篤志之者ニ付師及親類共ヨリ保証

書差出候間管轄廳ニ差支之有無及照會候處

別紙之通ニ候條教導職試補被命度依テ保証

書相添撰舉仕候也

一 等直轄出雲教會長代理ナレハ教會長
職名何誰代理ト記

シハ

年月日

職名何誰印

神道

副總裁岩下方平殿

地方廳ニ照會文例

何國何郡何村何番地居住

何族又ハ平民ト記スヘシ神官ナレハ

何神社何官ト記スベシ

何誰

明治何年何月

右之者共平素教導篤志ニ付去ル何月何日

又ハ當教會等ハ其所試驗ヲ遂テ教導職試補
ニヨリテ認ムヘシ

二 撰舉教度候殿御廳ニ於テ市差支無之哉則
保証書写相副此段及市照會候也

出雲教會長

年月日

職名何誰印

地方長官殿

保証書雛形

何府士華族何國何郡何柵何番地居住

何誰

何當明治何年何月何日

右之者終身教義ニ從事仕度志願ニ付連署保証教候也

年月日

何府士華族何國何郡何柵何番地居住

親族

何誰印

何縣以下同上

學師又ハ學友

何誰印

神道事務局

御中

履歷書雛形

明治何年何月何役申付候事 何府縣

何年何月何職申付候事 何府縣

何年何月免職

依願レハ依願

何年何月何役申付候事

大政官ノ辭令ナレハ大政官ト記スルニ不及

右之通ニ由座候也

何府縣籍何國何郡何村何番地位居

教職拜命ノ者ナレハ 何条誰

当職ヲ此ニ記スヘシ

給仕使丁勤務規則

第一條

給仕ハ專院内一切ノ雜務ニ従事シ使

第二條

給仕ハ各課係ノ指揮ニ應シ院内奔走及ヒ并當汲茶ノ事ヲ掌ルベシ

但内局始各課係ノ火鉢配置及ヒ院内ノ掃除ハ宿直ノ主務タルベシ

第三條

給仕使丁ハ職負出頭例刑前三十分以上ニ出院シ宿直ノ者ヲ助ケテ諸事ヲ爲スベシ

第四條

給仕ハ祭祀祈禱結社式等ノ節奏樂ヲナシ其他臨時神樂ヲ請フ者アレハ奏上スベシ

第五條

給仕使丁ハ毎夜殿守ト交番シテ宿直ヲナスベシ

第六條

殿守不勤ノ時ハ給仕代リテ其務ヲ弁スベシ

第七條

仕丁不参又ハ欠員ノ時ハ當直外ノ給仕主トシテ院外奔走ノ用ヲ辨スベシ

第八條

給仕不参人少ノ時ハ使丁代テ其務ヲ弁スベシ

第九條

給仕使丁ハ結社後本社参拜ノ案内ヲナスベシ

第十條

給仕使丁ハ退出前内局及各課係ヲ掃除シ火鉢糊等ヲ取片付ケ火ノ元ヲ取締ナスベシ

第十一條

給仕使丁ハ毎々交番神殿正面ノ前庭并ニ東玄關及職員昇降口ノ掃除ヲ為シ清潔ニナスベシ

殿守章程

第一條

殿守ハ神前ニ勤仕シテ監護スル者トス

第二條

普通講参ノ者ニ拝席ヲ示シ且神饌御酒ヲ戴カシムル事ヲ掌ルベシ

但金穀等ヲ献納スル時ハ取扱方異ニ付祈禱係ノ通知スベシ

第三條

世話掛己上ノ者参拝スル片ハ受付係ニ通知シ指圖ニ因リ拝席シテ拝禮セシムベシ

第四條

毎旦神札類ヲ祈禱係ヨリ請取カキ参拝ノ請求人ノ授典ニ初穂金ト残札トヲ毎夕該係ノ納ムベシ

但春秋教會祭其他参拝人多数アル片ハ臨機祈禱係莫出張シ直午ニ取扱フアルヘシ

第五條

祭祀及ヒ結社ノ節ハ式務係ノ指圖ニヨリテ神饌ヲ調、献供ノ時操出方ヲ掌ルベシ

第六條

宿直ハ給仕使丁ト交番シテ勤ムベシ

第七條

給仕差支アル片ハ臨時院内ノ雜務ニ奔走スベシ

第八條

殿守ハ式務祈禱兩係ノ隸屬ト定メレハ兩係ノ指圖ニ從ヒ臨時用ヲモ弁スベシ

出納課職制及章程

職制

課長 一員

課員ヲ統率シテ事務ヲ統管シ章程ニ照シ

テ出納用度修繕等ノ諸件ヲ管掌ス派出所
勞ニテ不在ノ第ハ副長ヲシテ代理タラシ
ノ事務留滞ナク整理セシムベシ

副長 一員

長ノ職掌ヲ輔ケテ長事故アル片ハ一切其
事務ヲ代理スベシ

主任

長ノ指揮ヲ受ケテ其事務ヲ整理シ帳簿ヲ
提掌ス

章程

本課ノ事務ハ出納用度修繕ノ三件ニシテ整

理セシムル權ヲ有ス課中ノ事務ヲ上下二款ニ分テ上款ハ課長ノ意見ヲ具シ上申シテ裁可ヲ得ルノ後施行シ下款ハ課長ノ意見ヲ以テ專行スルヲ得ヘシ上下二款ノ事務ニ於テハ課長其責ニ任ス

上款

第一節

寄附ノ物品賣却ノ事

第二節

壹圓以上ノ器械新調及ヒ物品買入ノ事

第三節

神札ヲ專掌、授付スル事

第四節

臨時給ヲ職負、配分スル事

第五節

修繕ニ關スル一切ノ事

第六節

課中ノ事務章程ヲ發達スル事

第七節

用達ヲ申付ケ又差免ス事

第八節

給仕使丁雇入又解免ノ事

第九節

出張所経費及専掌扶助金授付ノ事

第十節

臨時金穀取引ノ事

第十一節

教書代價及木札鑑札標籙ノ類製造費
増減ノ事

下款

第一節

教恩金ヲ請取り及ヒ藏元ノ納ムル事

第二節

旅費日当ヲ渡ス事

第三節

在田未滿ノ器械新調物品買入ノ事

第四節

神札料及賣却物代價未納督促ノ事

第五節

院中常用品買入各負ノ授付ノ事

第六節

月給配典及臨時雇賃ヲ廢ス事

第七節

諸買物代及飛脚費仕拂ノ事

第八節

例規ノ勘定^書差出方督促ノ事

第九節

諄辭集規約結収手続書教會必用ノ書冊製造印刷ノ事

第十節

鑑札木札標籜ヲ製造スル事

右上下二款ヲ定メ本課ノ事務ヲ管理セシム
因テ左ノ箇条ヲ掲ケテ取扱ノ細目ヲ示ス

第一條

寄付ノ米麥類ハ鑑定人ヲシテ當時ノ代價ヲ
定メ引受人ハ賣却シ代價ハ必即納ニシテ直
ニ藏元ハ納ムベシ

第二條

藏元ノ出納ハ一日毎ニ詳細出入ノ事由ヲ記
シ仕拂ノ分ハ特ニ注意シテ請所記ヲ取オク
ベシ

第三條

毎三ヶ月分四ヶ月目ノ十日以内ニ精算シ一
覽表ヲ作り金負受取人ノ証書ヲ添ヘテ上申
及詰負一同ハ廻覧スベシ

第四條

專掌ニ関スル出納ハ專掌規則ニ由テ取引ス
ヘシ

第五條

職貧月給ハ上十五月内命スレハ金額下十五
日間ノ申付々ナレバ半額ヲ給スベシ

第六條

給仕使丁ノ勤務ヲ監督シ褒貶黜陟ヲ具申ス
ヘシ

但給仕使丁ノ勤務規則ニ因リ取締ヲナス
ベシ

第七條

臨時給ハ出勤日數ニ割テ配與スベシ

第八條

詰負巡教中ハ臨時ノ給ノ配與ヲ受クヘシ專
掌ハ受持地方出張中ニ限り滿四年間ハ定規
半額ノ配分ヲ受ケ滿四年後ハ配分セサルヘ
シ

第九條

月給ハ病氣其他ノ事故ヲ同ハス允テ滿三十
日已上続テ不勤ノ者ハ全給ノ半額ヲ給シ五
十日以上ハ三分ノ一ヲ給シ百日以上ハ給與

セガル者トス
但忌引ハ此限ニアラスシテ金額ヲ給ス

第十條

神饌ハ詰負一同順番ヲ以テ配分ヲナスヘシ
其配分ハ時ノ見計ヒヲ以テナスベシ

第十一條

筆墨紙及蠟燭等院中常用品各詰負ノ授付ス
ルハ常用品引度簿ヲ作リ受取人ヲ以テ品目
負數ヲ記シ見留印ヲ居エシムベシ

第十二條

臨時給ハ教院收納物分典規則ニ因テ分典金

ヲ勘定シ例規ノ通夫々ハ分典スヘシ

第十三條

院中ノ修繕庭内ノ掃除ハ惣シテ課中ノ責ト
スレハ常ニ注意シテ清潔ニスヘシ

第十四條

巡教派出員ハ計算書ハ成規ニ據リ調査ノ上
院監ノ検印ヲ得テ興給スヘシ

第十五條

巡教派出ノ勘定ハ日數三十日以内ハ敝院後
五日間三十日以上百日迄ハ十日間百日以上
ハ十五日間ニ精算セシムシ

第十六條

諸課各係ノ見込ニ因テ新調買入ノ物品ハ惣
テ本課ニ引受ケテ取扱フベシ

第十七條

出納ニ関スル諸帳簿及後証ニ備フベキ書類
ハ散逸セサル様毎年十二月ニ取調目六ニ記
載スベシ

第十八條

日誌ヲ作り毎日ノ事務ヲ記シ院長ノ捺印ヲ
受クベシ

第十九條

各所未納金ハ未納簿ニ記載致シ置納金候節
ハ其年月ヲ記シ置テ消之事

第二十條

官省府縣ノ指令回答及神道事務本分支局等
ノ回答書ノ後証トナルヘキ大切ノ書類ハ必
本書シ内局ニ納メ写ヲナシテ課中ノ扣ニナ
スベシ

第二十一條

出納ニ関スル諸請取等ヲ出ス片ハ必元帳ニ
割印シ且課員捺印シテ渡スベシ

第二十二條

寄附貨幣人ニ賞典スル金負又ハ物品當務係
証ヲ得テ取扱フベシ

第二十三條

寄付ノ祝辭神酒魚等ノ類院中一同ニ配分ス
ヘシ

第二十四條

月給ハ毎月二十日ニ度ニ臨時給ハ毎月十日
内ニ前月分ヲ給與スベシ

第二十五條

本課ノ文書ハ左ノ目六ノ數冊ト定メ保存管
護スベシ若更ニ書冊ヲ増ス并ハ必其目ヲ記

載スベシ

一本課職制及章程

一日誌

一常用品引渡簿

一出納差帑簿

一藏元入金負簿

一諸收入金座分帳

一諸買物帳

一月給臨時給渡方帳

一每三ヶ月勘定表綴

一祈禱料勘定表綴

- 一 寄附米麥物品賣却取扱書綴
- 一本課ニ関スル官省府縣及神道事務局本
分支局往復書綴
- 一 東京出張所各教會所及掌關係書綴
- 一 寄附獎勵人賞典規則
- 一 諸品取扱簿
- 一 直轄納金豫備入金簿
- 一 巡教規則書
- 一 金貸借簿
- 一 各寺簿
諸出張所
各教會所 計算庶分帳

從來當教會ニ於テハ所屬教導職無之ニ付教
會職負ハ教會盡力ノ多少ニヨリテ高下ヲナ
シ更ニ教導職ニ關係不致候處直轄教會ニ相
成所屬教導職有之候様相成候上ハ所屬教導
職ハ一般教會擴充ノ責任アル者ニ付是迄教
負ニ無之ハ夫々加列可致孰テハ所屬教導職
進退點陟ト職負ノ進退ハ同一ニナサ、ルベ
カラサル儀ニ付自今左之通相定候事、
職制表中職負等級ニ教導職ヲ配当シ自今
教職ト職負トノ高下ナキ様ニ申付ル事

但其人ニヨリテ補教下級又ハ督事下級
トスル事

職負同級ナレハ新ナルヲ問ハス教導職上
級ノ者上級トスル事

本院派出ノ職負ハ地方職負ト職ノ高下ヲ
問ハス上座ニ列シ地方職負ハ其次又ハ右
座ニ列スル事

十四年十二月廿一日決定

出雲大社教院東京出張所定規

第一章

第壹條

東京出張所ハ左ニ記スル一府二十
縣ノ教會一切ノ事務ヲ統轄スル所

トス

東京府 千葉縣 神奈川縣

新宿縣 椽木縣 茨城縣

群馬縣 山梨縣 埼玉縣

山形縣 愛知縣 靜岡縣

宮城縣 青森縣 秋田縣

岩手縣 福嶋縣 長野縣

札幌縣 函館縣 根室縣

第二章

職制

第二條 出張所ノ職員ヲ分テ長副理事屬負

トス

第三條 長ハ所轄内ノ教導職ヲ統率シテ布

教一切ノ事務ヲ総轄シ本院ニ對シ

テ其責ニ任ス

第四條

副長ハ掌ル一長ニ亞ク長事故アレ

ハ代理タルヲ得

第五條

理事及屬員ハ長ヲ輔ケテ教務ヲ辦

理ス

第六條

正副長ハ本院ノ特權ヲ以テ命ス

第七條

理事及屬員ハ長ノ薦舉ニ因テ本院
之ヲ命ス

第三章

權限

第八條

所管ノ事務ヲ分テ上下二款トス上

款ハ本院ニ具申シテ裁決ヲ乞フノ

后施行シ下款ハ長決行スルヲ得

上款

告節

所轄内ハ分院ヲ設置シ及院長

ヲ命スル事

二節

部下教導職員役員講社各分

院及教會所ノ正副長理事並屬
員ヲ賞罰之事

三節 各分院及教會所ノ正副長分院
理事並部下教導職始職員進退
黜陟ノ事

四節 事務章程ヲ改刪スル事

五節 定規外ノ事務ヲ施行スル事

六節 教旨ニ関スル建言之事

七節 教導職所屬及轉屬之事

下款

一節 定規及達指令等ノ旨ヲ實施シ

所轄内教導職及職員役員ニ指
揮スル事

二節 所轄内ニ教會所ヲ設置スル事

三節 部下教導職昇級新補及試補見
込ノ者ハ揆擧法ニ準シテ試験
スル事

四節 管掌ノ事務ニ付所轄内教導職
及職員役員ヲ召集シ議案ヲ出
シテ異見ヲ伺ヒ及議場閉閉ス
ル事

五節 所轄内ノ教導職及職員役員ヲ

召集シテ教義ヲ講究スル事

六節 結社式ヲ執行スル事

七節 神咒及祈禱ヲ執行スル事

八節 胎息術ヲ傳授スル事

九節 講長以下役員ヲ補充黜陟スル事

十節 所轄内教會所ノ理事ヲ補免スル事

十一節 所轄内巡教及説教所開閉スル事

十二節 出張所ノ詰負及給料ヲ増減スル事

ル事

十三節 部下教導職ノ著書ヲ検閲シ出版ヲ開届ル事

十四節 鑑札標旗木札ヲ製造スル事

十五節 本院出版教書ヲ印刷スル事

十六節 葬儀靈祭執行スル事

十七節 神札授付スル事

第四章 分課

第九條 出張所ノ事務ヲ分テ庶務出納トス

第十條 庶務課ハ左ノ諸項ヲ掌ル者トス

一 項 部下教導職并職員役員之進退

無降及褒賞懲罰ニ関スル一切之事

二項 各教會所及教導職々負没負講社負等一諸達書送付シ及顧問屆等ヲ受理スル事

三項 教義ニ関スル一切之事

四項 分院及教會所開閉之事

五項 寄附金穀ヲ受理シ及褒賞之事

六項 巡教及小教會開設之事

七項 救助慶吊之事

八項 神札授付之事

九項 祭祀及祈禱神呪執行之事

十項 葬儀及靈祭執行之事

十一項 結社式及説教執行之事

十二項 献供ニ関スル一切之事

第十一條 出納課ハ左ノ諸項ヲ掌ル者トス

一項 金穀出納之事

二項 修繕ニ関スル一切之事

三項 製造ニ関スル一切之事

第五章

經費

第十二條

出張所經費ハ九年中午二百圓ヲ以テ定額トス

内譯

八百貳拾圓

結料

百八拾圓

諸經費

貳百圓

巡教費

第十三條

經費ハ諸收入料金之内出張所專收
ヲ以テ之シ償辦スル者トス

第十四條

第十二條ノ如ク諸員給料及經費金
等大目ヲ示スト雖凡長之見込ヲ以
テ斟酌流用スルヲ得ル者トス
但惣金穀ニ越エルコトアレハ必
ス本院指圖ヲ請フベシ

第十五條

収入料金ハ左ノ諸項ニ因リテ獲ル
者トス

一項 神札料

二項 神咒祈禱初穂

三項 教書料

四項 結社初穂

五項 教恩金及賽物料

六項 臨時諸收入金額

七項 標籙木札料

第十六條

諸收入分割ハ左之法ニ因リテ得ル
者トス

收入惣金高

十分之七

出張所専収

同

十分之一

修繕費引当豫備

同

十分之二

長己下詰員配給

第十七條

葬儀靈祭及其他章程中明文ナキ者
ニシテ信後ヨリ納ムル金額ハ出張
又ハ執行セシ者ノ所得トス

第六章

雜則

第十八條

神札及神号ハ本院ヨリ送附スル者
トス

第十九條

役員録議長已下申付タル役員年月
日姓名住所等ヲ詳記シタル所
者及結社署簿教會結社ノ名住所

第二十條

ニ人員戸數合計表ヲ添テ毎年一月
七月兩度ニ開申スベシ

年中經費ヲ精算シテ毎月表ヲ製シ
七月十二月兩度ニ開申スベシ

第二十一條

巡察度數及府廳縣國郡村名并小教
會開設景況ハ七月十二月兩度ニ開
申スベシ

第二十二條

諸員勤惰表ヲ製シ毎年一月十日迄
ニ届出ツベシ

第二十三條

所長権内ヲ以施行ノ事務ハ本院ニ
届出ツベシ

諸規則

明治十五年四月

出張所職員出勤心得

一長以下總出勤ハ毎月二五九ノ日トスル事

但二五九ノ日々曜ナレバ其翌日総出勤

スベキ事

一二五九ノ外ハ長以下文番出勤シテ教務ノ

滞滯ナキ様取扱フベキ事

但擔当ノ教務速ニ結了スヘキ者マレバ

休日ト虽モ出勤シテ事務ヲ所算シ出勤

者ヲ久待セシノ且時撥ヲ失フベカラザ
ル事

一教師ハ祭日及ヒ二五九ノ日出願シテ各該

教所ノ景況ヲ申報シ且事務ノ年傳ヲナス

ハキ事

但臨時祭典說教及ヒ葬祭等ニテ出勤ヲ

要スル時ハ出張所ノ通達ニ應ジ速ニ出

願シテ其事ヲ所算スベキ事

一教師ハ各該教所ニ於テ出雲教會ノ主旨ヲ

講明シ信徒ヲ誘導スル事ヲ勉勵スヘキ事

一出願日ニシテ葬祭說教又ハ所務等ノ節ハ

必午前ニ届出ツヘキ事

但二五九ノ外出勤当番ノ日本文ノ如不
参ナレバ必後番ノ者ニ依嘱シテ代テ出
頭セシノ当日出張所ノ事務取扱上不都
合ナキ様ニスベシ

一出張所ハ當分詰負ノ宿直ニ不及事

但小遣ハ出張所内ニ起居セシノ元取
締向等シナシムルカ故ニ詰負退出ノ
節取片付ニ注意シ取締方ヲ小遣ニ申付
クベシ

一所屬教導職始信者出頭ノ節ハ叮嚀懇切ニ

取扱ヒ毫モ威権ヲ敷挙動有之間敷事

一葬祭又ハ説教開講ヲ請願スル者アレハ速
ニ出張ノ手続ヲナシ喪家及ヒ信者ヲシテ
遺憾ナカラシムヘキ事

但指名請願スル時ハ直ニ本人ニ通知ス
ヘキ事

一勤務簿ヲ作り出頭巡回所労苦ニ説教葬祭
ノ度數等ヲ記シ長ハ月ニ検閲スヘキ事

東京府下職負布教心得書

一 毎月祭日ニ出頭シ且時々教會擴張ノ景況
ヲ申報スヘキ事

但葬祭説教及所労等ニテ出頭ナシ難ク
ハ届出ツベシ

一 臨時出頭ヲ要スル時ハ出張所ノ通達ニ應
ジ速ニ出頭シテ事務ヲ所弁スベキ事

但事務手傳之節ハ日当ヲ給スル事

一 出張所長ノ命ニ因リ各地方巡教スル事
但巡教之節ハ定規ノ旅費日当ヲ給與ス

ル事

一 府下ニ在テ専ラ教會ヲ擴張シ信者ヲ結収

スヘキ事

一 出張所ノ命ニ因リ葬儀及信徒ノ請願ニ因
リ小教會ニ臨場祭典説教スル事

但講禮并ニ葬儀ニ付謝禮ハ本人所得分
論ノ事

右ノ數件ヲ履行スルニ付左ノ手数料ヲ授ル
者トス

一 結社及祈禱金穀ノ寄附ヲ取次ク片ハ談金
穀高十分ノ一ヲ手数料トシテ與フル事
一 教書ハ定規ノ割引ヲ以テ與フル事

結社授典品取^{取扱}内規

壹圓以上

六神号

日拝式

諄辭集 上下

鑑札

木札

外ニ神饌ノ内見計ヒテ以授典ス

五拾錢以上

六神号

日拝式

諄辭集 上下

鑑札

木札

三拾錢以上

六神号

日拝式

鑑札

木札

拾五錢以上

日拝式

鑑札

木札

一菲力ニシテ前記ノ初穂納メサル者ハ五匁

以上ハ鑑札木札ヲ授ケ五匁未満ハ鑑札ノ

ミヲ授典ス

右ハ一戸ニ付定ムル者ニシテ家族ノ多寡ニ

ヨリ鑑札ノ負數ヲ増減スベシト金氏素ヨリ

鑑札ハ無料ニテ授クル者ナレハ家族ノ多寡

ニ拘ハラズ一戸ヨリ前記ノ金額ヲ納ル片ハ

記載之通授典ヲ取扱フ者トス

但戸主前以テ入社シ後日家族ノ入社スル

ハ唯鑑札ノミヲ授與スルニヨリ初穂ハ前
記ノ限ニ非ス

東京出張所職員給料

長老員 月給三十圓

副長老員 月給二十圓

理事老員 月給二十圓

属員二員 月給拾四圓

教師二員 月給拾二圓

小遣二員

給料ハ時ニ從テ増減スベキニ付豫定

セズ

右創業ノ際ニ付長以下属員迄月給定額半額
ヲ給シ教師ハ定給三分ノ一ヲ授テ出張所収
入増加ニ從テ加給スル者トス

教會未設ノ地方ニ擴張者ヲ定メ附托
方并ニ神札授布ノ手續

教會未設ノ地方ニ於テ新ニ結収セントスル
者ハ左ノ規則ニ因テ本院之ヲ許可ス

規則

一 地方教會擴布ヲ許可スル者ハ本院職負ノ者ニ限リ之ヲ命ス

一 擴布方ハ擔当地方ニ在テ結社式執行及結社ニ付授典品且神札ノ授布スルヲ得ベシ

一 講社結収及結社式等ハ規約書手統書ニ準據取扱フベキ者トス

一 講社結収ノ上ハ信者ノ多寡講社ノ景況ヲ酌量シ職制表ニヨリ講長以下ノ役員薦挙スルヲ得ベシ

一 教會結収ニ付該費用ハ一切本院ヨリ結典

セザル者トス

一 神札ハ教會社中ノ請求ニ應シテ授典スト
虽正信徒ノ景況ニ因リ廣ク之ヲ授布スルヲ得ベシ

但講社中外ノ者ト虽正信仰ニヨリテ授クルハ不苦

一 神札ハ本院ヨリ之ヲ授クル者トス

一 神札料ハ着手後滿二年間ハ原費三年後ハ定額ノ通本院ニ納ムベシ

一 神札ノ原費ハ前納トシ三年後ハ定額ノ内六分ヲ前納トシ四分ヲ授布ノ後之ヲ本院

ニ納ムベシ

但神札ハ再ヒ本院ニ返納ヲ許サス

一神札初穂本院納金ノ外一切教會結收ノ助費トシテ擔当者ニ授與スベシ

一教會結收ニハ信者ヨリ幾分ノ入社料ヲ出サシノ其出金額ニ應シテ授與品ヲ取扱フベシ

但授與品ハ申立ニ應シ本院ヨリ定額割引ヲ以テ擴張者ニ渡スベシ

一入社料ノ多寡ニ應シテ授與品ノ區別アルハ結社授與品取扱内規ノ通取扱フベシ

一入社料ノ内ヲ以テ鑑札木札其他ノ授與品製造原費ヲ弁シ残額ハ總テ擴布者ノ巡回費トシテ所得スベシ

一教書類ハ定規ノ通割引ヲ以テ授クベシ

一教會信者ヨリ教院ニ寄付ノ金穀ヲ取次ク片ハ手数料トシテ寄付金高十分ノ一ヲ授クベシ

一擔當地方外ニ於テ猥リニ教會結收スルヲ得ス

但止ヲ得サル片ハ本院ヘ伺ヲ經ルノ後着手スベシ

一規約手續書五百部未滿ハ無料五百部已上ハ原費ヲ納ムベシ

一神札及其他授與品運搬費ハ凡テ原費ノ内ニ組込ムベキ者トス

一木札ハ製造原費ヲ以テ出張所ヨリ渡スベシ

但分院設立ノ上ハ該院ニテ製造スベシ
一鑑札ハ製造原費ヲ以テ出張所ヨリ渡スベシ

教導職所屬願取扱方

教導職ノ新ニ所屬ヲ請フ者アレハ先出雲教會ノ教旨ヲ確信スルヤ否ヲ問ヒ定規ノ所屬依頼書ヲ出サシメ是迄所轄ノ分局ニ照會シ回答書ヲ得ルノ後本人依頼書并ニ分局轉屬承諾回答書相添教院ニ申送スベシ

但若シ本人未タ教旨ヲ詳ニセサルコトアレハ大道要義等ヲ示シ熟覽ノ上確信スルニアラサレハ漫ニ所屬ヲ承諾スヘカラズ

教會職員申付方ノ手續

一 職員ハ素ヨリ教會ノ教旨ヲ確信スル者ニ限ルヘキ事

一 職員輔教習事教會掛ハ教導職ノ外トモニ
真ニ教旨ヲ確信シ教會擴張ノ任ニ堪ル者
ハ申付クベキ事

一 初テ教會擴張ノ地方ニハ先擴張方ヲオキ
其勞力實功ヲ經驗シテ相當ノ職員ヲ付ス
ハキ事

但擴張方ハ教職及未試補ニ不拘申付ル
者トス

一 職員ニ申付ル者ハ別紙職制表教導職等級
ヲ比較シ先下級ヨリ申付クヘキ事

但未試補ノ者モ之ニ準シテ取扱フヘシ

既設ノ各教會所及ニ職員役員ノ申請
ニヨリ神札及ヒ教書渡方ノ手續

一 神札料ハ定額ノ内六分ヲ前納トシ四分ヲ
後納トスヘキ事

但前納金額ヲ納ムルニアラサレハ渡方
不致事

一神札ヲ渡スニ付左ノ書面ヲ取置後証ニ供
フヘキ事

神札ノ儀ニ付請書

今般何口教會信者中へ神札授布候ニ付御
玉事幾數何守哉体正ニ請取申候就テハ該
料定額何程之内六分前金何程今因相納メ
残金何程ハ来ル何月何日迄ニ授布済ニ不
拘屹度相納メ可申且神札ハ授布殘餘有之
候共返上不仕候此段為後日一札差出申候
也

年月日

何口何郡何村

教會職名 何誰

出雲大社教院

東京出院所長何誰殿

一神札料後納ニ当ル四分ハ元神札相渡シタ
ル日ヨリ六十日ヲ限り納メサスヘキ事
一教書ハ料金前納ノ分ヲ限り割引法ニヨリ
テ渡スヘキ事

但教書定價及ヒ割引法別紙之通

一教書料金後納ヲ請フ者ハ定價三分ノ二ヲ
納メサレハ渡スヘカラサル事

但殘金三分ノ一ハ教書相渡シタル日ヨ

リ五十日間ニ必納ムヘキ証書ヲ取オクヘ
シ証書ハ神札ノ分ニ準ス

出納統理依頼ノ件

出張所出納ニ關スル諸件ノ統理ハ小西有勲
ニ依頼候事

但本院権内ノ事務依頼スル所ハ時々爲ニ
得詰員ニ達スベシ

前件依頼スルニ付出納主任者ハ必ス統理ニ
票議シテ主務ヲ所弁スベキ事

葬祭取扱心得

葬祭ハ貴賤ノ貧富ノ別ナク懇切丁寧ニ取扱
ヒ遺族ノ者ヲシテ毫モ遺憾トスル所ナカラ
シムルヲ要トス今ヤ各教競フテ人ニシ集攬
セント欲スル際ナレバ尤注意セサルヘカラ
ズ依テ左ノ各条ヲ設ケテ葬祭取扱人ノ心得
トス

一葬祭ヲ依頼スルハ貴賤貧富ヲ問ハズ謝儀
ノ厚薄ニ拘ハラス丁寧懇切ヲ尽シ見聞者ヲ

シテ感化スルノ情ヲ惹起サシムル様注意
シテ執行スヘキ事

一喪家ニシテ祭官ヲ待遇スルノ厚情ヨリシ
テ饗應及仕向方等華美ニ属スル事アレハ
假令其喪家ハ富貴ナルモ甘シテ受クヘカ
ラス必慙示シテ超分ノ儀無之様可致事

一貧賤ニシテ葬費ヲ弁シ難キ者ハ祭具ヲ無
料ニシテ貸付ケ祭官等ハ無謝儀ニテ執行
スヘキ事

但葬祭具ハ出張所ニ設ケオク様可致事
一葬祭ヲ依頼スルキハ貧賤ノ者ト恣ニ辨セ

スシテ引受ケ懇切ニ取扱フヘキ事

但出張ノ時刻等ハ能々誤ラサル様注意
スヘキ事

一靈祭ニ関スルモ前文ニ準シテ取扱フベキ
事

一東京出張所創業費トシテ金六百圓隔二年
間送付候事

教書定價及割引法

一出雲問答	壹冊	定價 三拾貳文
一出雲大社造宮沿革圖辨	壹枚	定價 六拾貳文
一大道要義	壹冊	定價 三拾貳文
一神恩記	同	定價 六拾貳文
一日拝式	壹折	定價 六拾貳文
一出雲傳統畧	壹枚	定價 八拾貳文
一道の一草	壹冊	定價 四拾貳文
一神語	同	定價 五拾貳文
一氏子の心得	同	定價 五拾貳文
一葬祭式	二冊	定價 五拾貳文

一教會撮要

一松壺文集

一歌神考

一止由氣巾靈

一本末の歌解

一大道問答

右拾部以上ハ五枚二拾部以上ハ壹割五拾部以上ハ壹割半百部以上ハ貳割引トス

一諱辭集

一福神像辨

一神徳畧

一六神考

老枚

定稿
新稿
改

右四目割引無之

委托條件

東京出張所事務章程中上款ニ付左ノ件ハ當
分所長ニ代理處分ヲ委托ス

一 所轄内ニ分院ヲ設置スル願ヲ受理シ不
都合ナキ分ハ先地方廳ハ照會シ其回答
ヲ得ルノ後内務省ニ進達シテ許可ヲ請
フ事

但分院及教會所正副長ハ本院ニ申立
ノ上本院之ヲ命シ理事以下ハ所長之
ヲ命スベシ

一 教導職所屬ヲ請フハ取調ノ上不都合
ナキハ其人從來所屬ノ分局又ハ教會所
ニ照會スル事

但照會ノ回報ヲ得レハ所屬願書ト共
ニ本院ニ進達スベシ本院ハ取調ノ上
承諾書ヲ出張所ニ送ルベシ

一 教院職員一寺輔教以下及擴張方等其入
ヲ精撰シテ申付ル事

但教導職等級ニヨリ職製表ニ比較シ
テ申付クベシ

一分院及教會所理事並ニ職負役負ヲ申付
ル辭令書ハ兼テ捺印ノ分本院ヨリ回送
シオクヲ以テ書式ノ通認ノテ取扱フ事
辭令書式

○輔教書式

教導職

何誰

出雲大社教會何等輔教擔任可有之事

年月日 出雲大社教會

大教主大教正千家尊福

○督事書式

教會係并ニ大講義以下
大世話用マテ之ニ準ス

教導職

何誰

出雲大社教會何等督事タルヘキ事

年月日 出雲大社教會

大教主大教正千家尊福

○擴張方書式

權大講義以上ハ本文ノ通
中講義以下ハ朱書ノ通

出雲大社教會擴張方擔任可有之事

擔任可有之ヲ五字ヲタルハキノ四字ニ換フベシ

年月日 出雲大社教會

大教主大教正千家尊福

明治十五年四月廿二日

入社誓詞

所造天下又主宰幽事大神乃大前乃教導職某
謹敬母宇氣比言申久佐姓名多人救アル姓ハ姓名等大神
乃高乃尊乃御恩賴手喜美辱美奉留依互此教
會乃入奴故今與後遠長久大神乃傳給雷御
誨乃隨乃神乃御道宇重美修米怠良此教會乃
則手守豆邪支道破入良若過犯須事乃有良波大
神乃廣使厚使和魂乃御惠以豆神直毘大直毘
見直志給比聞直志給比故乃此宇氣比乃違

米豆比
異支行字為波伏大神乃荒魂真朋久氣知着罰
給年波阿奈可畏

結社式祝詞

所造天下又幽冥乃主宰止坐マシメ掛卷母忍支
大國主大神乃大前乃忍美忍母美白久伏何國何郡
何村乃住雷何誰等伊大神乃廣支厚支御
恩賴乃因豆現世乃在經乃間波更母言受幽冥
入乃後乃靈魂母治米給比撫給布事宇喜美
謝美此教旨乃任神乃道宇重美修米百結結毘
八十結結乃千尋拷繩乃唯一條乃面向比皇神

等乃賦給サケタ真白玉靈マシラタマ柱ハシ嚴シツ正マサ築固タカシ給
此教會キョウカイ入奴ヌ故某等コノタチ清スガシ亦モト心ココロ憐美レナミ給
助タモフ給タマフ今與イマニ後彌益ノチニ無ナシ給タマフ惠メデ給タマフ其家
內ウチ與ニ起アガリ災無ハシラ外與ソトニ入イリ來キ禍ワザ事无ナシ父母
生ナマセ族ウラ家カミ族ウラ妻メケ子コ僕ツ子コ等ナニ至タラシ命イデ長ナガシ病ヤミ事无ナシ
後安ノチニ久キウ為ナリ須ス營業ギヤウ急イサ受ウケ放ハナ心ココロ乃ナニ及ツキ布フ限リミ力
乃ナニ至タラシ留トモ極キハミ日ヒ爾ニ異イハ尔ニ恪セツ美ミ勉ツメ任マカ尔ニ功コト成ナリ竟マデ給
又現マタ世ヨ守モリ罷ヤメ爾ニ後ノチ魂タマ波ハ遠トホ長ナガシ安ヤスシ久キウ樂タカシ久キウ鎮
給タマフ比ヒ家カミ內ウチ乃ナニ守モリ神カミ止トモ成ナリ豆マメ子コ孫マコ乃ナニ彌タラシ繼ツギ々タタ尔ニ家
門カド守モリ立タテ榮サカシ御ミコト歲トシ豐トヨク尔ニ不ナシ足タラシ事无ナシ久キウ令メ得タラシ給タマフ比ヒ夜
乃ナニ守モリ日ヒ乃ナニ守モリ尔ニ守モリ幸サイハシ給タマフ止トモ忍シノ美ミ忍シノ母ハハ白シロ須ス

連月小例祭諄詞

是乃假カ乃神牀カミヤ座奉イハヒマツ里齋奉イハヒマツ掛卷カケマキ畏オソ伎
大國主大神オホクニヌシカミ乃字豆ナニノマメ乃大前オホマヘ尔ニ忍シノ美ミ忍シノ母ハハ申マウ尔ニ是
乃地チ宇ウ大社オホヤシロ乃教會カウカイ乃事執行コトノシテ布所止フショトモ定サダ美ミ大神
乃神カミ殿タテマツル毛モウ造ツクリ里仕奉シホム傳ツタヘ乃假カ乃御座ミマス止トモ如此仕奉コノコトニシホム乃
事狀コトノシテ波ハ禮無レナシ久キウ畏オソ乃大神オホカミ乃御祭日ミマツルヒ乃今日コンニチ乃朝
日乃豐榮トヨサカシ登ノボリ尔ニ礼代レタテ乃御酒ミマツルサケ御饌種ミマツルタネ々タタ乃物宇モノウ机
代乃物タテノモノ登ノボリ尔ニ奉ホム里拜イハヒマツ美仕奉ミシホム乃事狀コトノシテ乃御心ミココロ母
穩ツボミ尔ニ聞食ミコトク宇豆ウマメ乃比給ヒタマフ比ヒ此教會キョウカイ尔ニ伊曾波伎仕
乃人共ヒトトモ乃過犯オホトガシ須ス事乃有コトナリ乃神直毘大直毘カミナオホナオホナミ乃見

直志 聞直志 給此教會 月日 氣廣里
 榮之 是乃 所 總預 國々 波 打見 島乃 崎々
 極見 石磯乃 前落 此教 行到 里 滿足 給比
 又此教會 入加 信徒諸乃 身 家 福事有
 受惟神 美 大道 一筋 蹈違 家業怠受
 負之 那々 安久 樂久 此世 終 後乃 魂乃 行方
 毛 遠長 守給 幸給 專廣 伎厚 伎 大御惠
 蒙給 畏美 畏美 申須

出雲大社教院派出旅費日當表

旅費等	一 等	二 等	三 等	四 等	五 等
職 名	大教長	副教長	輔教	督事	教會系
職制級	一級	二級	自四級至八級	自九級至十三級	自十四級至十九級
國內巡教	九拾錢	七拾錢	三拾六錢	三拾錢	二拾錢
同滞在	六拾錢	五拾錢	二拾七錢	二拾五錢	二拾三錢
國外巡教	四拾二拾錢	一四五錢	四拾五錢	四拾錢	三拾錢
同滞在	九拾錢	七拾錢	三拾六錢	三拾錢	二拾錢
巡教ノ外事務取調或ハ紛義調停ノ為各所	ハ出張ノ者表面二等以上ハ増額ナシ三等				
以下ハ一日拾錢ツ、ヲ増支給候事					

招請

一里以内ハ巡回本額ノ三分ノ一ヲ給ス
四里以内ハ巡回半額ヲ給ス
四里以外ハ巡回本額ヲ給ス

但招請ト魚牒時宜ニヨリ願主ヨリ人
足不出節ハ實際人足費ノ証書ニ院
監ノ檢印ヲ得テ仕拂ヘシ

一二里半以下ハ滞在ト見做ス

但本院ヨリ距離一里以内ハ往復二日掛
ニテモ一日分ノ滞在費ヲ給ス

一二里半以上十里ヲ一日分巡回本額ヲ給ス
一十一里以上ハ二日分巡回本額ヲ給ス

給使ハ神札木札教書規約等ヲ與ヘル手
續書

出納課ハ小遣ニ神札教書規約木札出張所設
立主意書等ヲ渡シオキテ職負出頭前并ニ退
出後ニ於テ信者来リテ請フ時ハ授與スル事
ヲ取扱ハヤ可申事

但小遣ハ尤ノ手續ニヨリテ夫々ノ取扱ヲ

ナスヘシ

神札教書類取扱方

神札教書類約本札等ヲ出納課ヨリ受取り小遣元請帳ニ種類負数ヲ記シ信者ニ授與ノ分ハ拂ノ部ニ記シ毎日授與ノ分ハ料金ヲ出納課ニ納ムヘシ

但授與残りノ神札教書少数ニナルハ出納課ニ請フテ受取オリヘシ

入社ノ手續ヲ尋ル者ニハ規約ヲ無代ニテ授ケ且別紙ノ通署名簿ヲ作りテ出願スヘキ旨

ヲ告ケ入社初穂ノ多寡ハ素ヨリ入社人ノ心次第ナレトモ結社授與品取扱内規ヲ示シテ詳細ニ話スヘシ

神札及教書ハ初穂定額表ニヨリテ料金ヲ受取ルヘシ

但教書ハ二十冊已上即金ニテ受取ル者ハ定價表ニ照ラシ割引シテ渡スヘシ

出張所設立ノ主意書ハ無代ニテ来訪ノ者ニ授ケヘシ

結社授與品取扱内規

壹圓以上

六神號

日拝式

諄諄集

鑑札

木札

外ニ神饌ノ内見計ヲ以授與ス

五拾錢以上

六神號

日拝式

諄諄集

鑑札

木札

三拾錢以上

六神號

日拝式

鑑札

木札

拾五錢以上

日拝式

鑑札

木札

一 菲力ニシテ前記ノ初穂納メサル者ハ五錢以上ハ鑑札木札ヲ授ケ五錢未満ハ鑑札ノミヲ授與ス

右ハ一戸ニ付定マル者ニシテ家族ノ多寡ニヨリ鑑札ノ負數ヲ増減スヘシト魚片素ヨリ鑑札ハ無料ニテ授ケル者ナレハ家族ノ多寡ニ均ハラス一戸ヨリ前記ノ金額ヲ納ルハ記載ニ通授與ヲ取扱フ者トス

但戸主前以テ入社シ後日家族ノ入社スルハ唯鑑札ノミヲ授與スルニヨリ初穂ハ前記ノ限ニ非ス

署名簿雛形

私共儀

出雲大社ニ御依頼申上生死不二神道ノ御教
ニ帰順今般脚教會ニ加入仕候既テハ御規約
ノ趣厚リ相守可申候也

何縣何国何郡何村

何之誰印

家藏印形所持不致向幸人

妻誰印

ノ実印ニテ且ニ

長男誰印

出版書目并定價表

出雲問答 三拾貳 日样式 六貳

沿革圖弁 貳拾錢 傳統略一拾捌 八貳

傳統略貳拾 拾貳 神語 壹貳五厘

大道要義 三拾貳 大道問答 拾四貳

葬祭式 五拾貳 道の一草 四貳

氏子の心得貳貳 神恩記 貳拾五貳

教會撮要 拾貳錢

右定價割引法ハ二拾冊已上ハ壹割引五拾冊
以上ハ壹割引半引百冊以上ハ二割引トス

諄辭集 拾錢 全下巻 拾貳

六神號 拾圭 福神像并 拾圭
勅諭俚解 五圭 教會規約 無代援與

御靈魂移祝詞

是乃小床乎假乃神牀止齋奉里座奉留掛卷母
忍伎大國主大神乃字豆乃大前尔畏美畏母白
以先某國某郡某村乃里人諸大神乃廣伎厚伎恩
賴乎忍美奉里尊昆奉里是乃教會尔入里加里波
即氏其處尔大神乃分御靈乎齋奉里鎮奉里朝
夕尔拜美仕奉止為尔留依互御靈代乎請申里世故

忌因里清因里造里仕奉礼是乃御鏡尔奇伎大
御靈乎分知取托互彼里人乃乞祈奉里齋仕奉
武隨々其所尔遠長久鎮座互赤心乃真心尔仕
奉銀其人々乃身毛乎家毛乎守幸同給以真神乃本
教尔倚米給比惟神乃道乎履違受同八十福津日
乃福事尔相麻自許里相口會受平介安久立榮
衣在經米給比大神乃靈幸以奇伎神業止外國
乃國乃餘乎三自乃綱打係互大船乃母々曾々
呂々尔引來縫結比給箇事乃如久天之益人弥
益尔大神乃恩賴乎仰尊比奉里惟神乃本教
尔依里從互是乃教會互彌廣尔弥遠尔在米給

用乞祈奉爾故是乃大前爾豐御酒豐御饌種
乃物乎奉里置且畏美畏母稱言竟奉止申頃

教會所或新設神靈鎮齋祭典祝詞

月々波雖有八十日日波雖有某月某日乃今日
宇吉日乃可美日止卜定珠是乃神牀爾鎮奉里
齋奉爾掛卷母畏伎我大國主大神乃神靈乃
宇豆乃大前尔齋主仕奉爾大社友會乃教長職
姓名畏美畏母申尔神漏岐神漏美乃命以且皇
御孫命宇豐葦原乃水穗因尔天降座志給止布神
議里議里給且幽事顯事宣別定米給志時尔國

造里座志大神乃神殿宇天神乃御子天津日繼
知食源登陀流天之御巢成且柱波高尔太尔板
廣尔厚尔造里仕奉志其御前乃事波天穗日
命取持且仕奉尔宣給志八雲立出雲乃大御社
乃千木高天原尔高知里八百土杵築乃大宮柱
底津石根尔太敷座伎故下堅尔八固尔結爾神
代乃御契弛布事無尔動尔時無尔上波皇朝廷
乃大政尔助氣幸爾下波天下乃公民諸乃產業
母尔寄里惠美給比又國中乃幽事波專給治米給
斂尔故尔顯見蒼生乃生死乃二道係且恐美敬比
仕奉里在爾事波即且天神諸乃大御慮尔合尔

故遠祖天穗日命_{里與}生子_乃續_乃千尋榜繩一
筋_尔大神_乃御前_乃事取持仕奉_{里傳聞未志}大
教正千家尊福_伊大神_乃高伎御稜威深伎恩賴
乎頂_尔捧氣持_{以都}大神_乃勞伎給_比事成_{志治}米
給_{志比}惟神_乃道_乃隨_乃顯見蒼生_乎教開尊_使天
下_乃公民諸_乃惑_雷心荒_而魂_乎媚和_志鎮平_止年
懇切_尔書撰記_志則設定_里年麻祢久_里因巡_里因
里導_久隨_乃沖津鳥鷄_乃住_年島根_乃縣_始米
國_乃八十國嶋_乃八十島彌續_乃是_乃教會_尔
入加里是_乃講社_尔列里屬_久人_乃多伎中_尔此
度此某_乃縣_乃下_雷其國某郡某村_{或某國某區}
_{其町其新}同

人_乃伊入紐_乃同心_尔相議_里此某村_或乃地_尔

教會所_或分_乃設定_米置_志今_日乃生日_乃足_日尔

大神_乃御靈_乎如是鎮_米如此齋_比奉_志是_乃教

會_尔屬_乃教導_乃云_母更_里信徒諸同心_尔伊

這_乃美御祭典_{仕奉}云_母更_里信徒諸同心_尔伊

乃物_中捧_氣奉_里鎮_美敬_比仕奉_乃事狀_乎平

久安_氣聞食_且今_里後遠長_久大神_乃御靈_波是

乃地_尔鎮里座_且出雲八重垣夜布士_{麻理}結_里

回_志彌遠_尔彌廣_尔結_比行_算是_乃教會_乎千尋

榜繩成_頂百結_比結_比八十結_比結_比百八十結_比

乃神_乃白楮_乃經緯_乃面背_乃面_乃隔無_久人_乃

諸赤心乃真心尔勤美仕奉志言僖弊久異国風
乃異志教尔相麻自許理相口會變清尔心乃明
使心尔良久神習尔給比朝乃身久乃身尔身里
幸尔座止恐美恐尔称言竟奉尔申頂

教會所分說教開講日祝詞

是乃出雲大社教會所分神狀尔齋奉里座奉
雷拭卷母畏使大国主大神乃字豆乃大前尔畏
美畏母申尔其乃里人乃中尔我大神乃廣使厚
使恩賴尔畏美尊比赤心乃真心尔仕奉尔為雷
人々諸入紐乃同心尔相議里相定里此某村乃

地尔教會乃事取行布所尔造里立我大神乃分
御靈母齋比鎮米座奉里後專大神乃大使御稜
威尔仰使奉里廣使恩賴尔乞祈奉里此教乃道
尔依里此教乃則尔守里家人尔更里他人尔彌
繼尔弥廣尔教用面向氣歡米導尔專我大神乃
恩賴尔知米生死乃二道係且惑物思變一白
尔大神乃御惠尔我母人母依且止誓比契里
故今日里始里月々時尔是乃教會所尔人々
乎集此教乃道此教乃則尔說教用論志志尔
為雷事狀尔相字豆那比聞食且皇神等乃依志
給比授氣給爾白玉乃清使明尔靈魂尔放米受曇

永世惟神現身ル享得且生來礼直後正後真心中
惑迷亂礼能久神習禮給互顯見蒼生習禮給交
狹伎道乃異伎橫乃道入慧人止在雷道乃隨
々大君宇重志父母宇尊比夫婦兄弟朋友相睦
相和美各々家業中為次隨々成得志給比命乃
限乃時到且幽冥ル入年後乃魂乃行方安久
樂久在年事宇大神乃幸魂奇魂夜乃守日乃守
守幸閉給止畏美畏美申頂

直轄教會教導職取扱書

當教會直轄一等教會タルニ付職員並役員ニ教導職タル者ハ自今當教會附屬タルハ勿論付副紙雛形書照準シ更ニ附屬ノ儀可申出事

但社中外者ト虽氏自今當教會從事致度向ハ本文ノ通り可申出事

當教會附屬ノ上ハ從來該地分局ニ取扱來候事務ハ一切本院ニ管理スル付分局ノ管轄ヲ脱スルハ勿論之事

但從來ノ緣故又ハ篤志上ヨリ該地分局ニ合力スルハ不苦且不得止當分地方分局ノ所轄ヲ受ケ或ハ他社ノ教會ニ附屬スル者モ本社教會ノ

職員ト爲テ擔當候儀差支無之事

當教會附屬ノ教導職一般ノ顧問届及ヒ建議等必
本院ヲ經テ内務省並ニ事務局へ進達スル事

當教會附屬ノ教導職及社中ノ者試験ヲ請フハ聞届
上教導職薦奉ノ手續ヲ取扱フヘキ事

當教會附屬從書ヲ送致スル者ハ承認狀ヲ授與スル事
當教會附屬ノ教導職及講社取扱ノ儀ハ一国内ノ分
ハ二等教會所ニテ郡内ノ分ハ二等教會所ニテ管理ス
ル事

但當分一等教會所等設置無之地方ハ顧問届等
一切本院直ニ進達可致事

各國一等教會所長ハ本院ノ特命ヲ以テ命シ給料
モ本院ヨリ授與スル事

但漸次該所收入物ヲ以テ充ルハ勿論ニ管下ノ講
社ヨリ教恩金ヲ納メテ費用ヲ補償スヘシ

所屬請願書案

私儀出雲大社教會信仰ニ付自今御教會ニ所屬
シ應分ノ盡力仕度候條御許諾被下度此段御願
申候也

何縣何郡何村何番地

何籍

何神社神官

何職 何誰

年月日

出雲大社教會

大教主千家尊福殿

書式雛形

何府縣華士族
平民

何国何郡何町何番地居住

何国何郡何町鎮座

何神社祠官掌

何年何月日 當職挥命 教導職 何誰

何府縣華士族
平民

何国何郡何町何番地居住

何年何月日 當職挥命 教導職 何誰

年月日

教導職 何誰印

出雲大社教院中

今般神官教導職分離被達候二付伺

一府縣鄉村社神官教導職新補昇級願從前之

通進達致當分差支無之候哉

一府縣鄉村社神官三教導職兼補之者三新教

會講社結収願差出候得者従前之手續ヲ以テ
進達差支無之候哉

右兩件何分之御指揮有之度此段相伺候也

神道副總裁

明治十五年二月廿三日

岩下方平

内務卿山田顯義殿

書面之趣尤之通可相心得事

第一條

祠官祠掌ノ教導職ハ目今ノ儘据置ハシ

第二條

神社教會ト混同セザル分ニ限り伺之通

明治十五年三月廿日

内務卿山田顯義印

本月八日付ヲ以テ板玉串外守札料額御尋之趣了義即別
紙之通ニ候其内板玉串ハ信者ハ定料ヲ以下渡之短則無
之專ラ配布ニ所用致来候尤米川ハ下渡之分ハ板玉串ニ
テ三錢ト記載有之候ハ信徒ヨリ納金高平均一俵ニ付三
錢ト見劔シタル義ニテ料額相定メ候義ニ無之候条此段
御義知有之度及御回答候也

明治十五年七月廿五日

大社派本院

出納課

東京出張所

出納課御中

各教會所下所神札定料表	但七步	本所細得
品目	信徒入下渡	教會所細
釘先	七厘	三厘
小守	七厘	三厘
板玉串	二錢一厘	

出雲大社教會之儀ハ追々各府縣下ニ擴張致シ現今結収之信者既ニ百三十万余ニ過候處實際布教ニ都合モ有之已來教會所屬教導職進退具狀及教務一般ノ事件ハ出雲大社教院ヨリ神道事務局ヲ經テ直ニ本局ヲ經テ御省

ハ進達候様致度候條至急御許可被下度此段御願申候也

明治十四年七月四日

大教正千家尊福

内務卿松方正義殿

書面之趣聞届候事

明治十四年七月十二日

内務卿松方正義印

出雲大社教院出張所移轉届

出雲大社教院出張所之儀ハ去ル明治十一年一月十一日御聞届ニ付尔來府下神田區神田神社ノ事務所ニ合併シ教務取扱居候處今後一層教會擴張ノ見込ニ付斐田區上二

番町四十七番地千家尊福邸宅、移轉仕候條此段御届申候也

明治十五年四月四日

神田神社祠官

權大教正本居豐顯印

出雲大社教會長

大教正千家尊福

東京府知事松田道之殿

建築届

麴町區上二番町四十七番地

一大社教院出張所

木造、惣坪數八十七坪七合二夕

内

神殿銅葺、九坪五合

通殿瓦葺

八坪

講殿瓦葺

七拾坪二合二夕

右者去四月四日出雲大社教院出張所移轉之儀内務省東京府へ届濟ニ付御布達ニ隨ヒ今般建築致度候間實地御検査被下度此段御届申候也

但來十六年一月落成之見込候

麴町區上三番町四十七番地寄留

大社教會長

大教正千家尊福

明治十五年九月廿日

警視惣官樺山資紀殿

東京府知事松田道之殿

今般神宮始官國幣社神官教導職業務ヲ廢セラレ候處出
雲大社教會之儀ハ祖先以來所傳之教旨ヲ以テ歸信之者
ヲ結收シ已ニ各府縣下ニ於テ開設スル教會所七十餘ヶ
所結社之人負五十万余之衆ニ及ヘリ且明治五年教導職

ヲ置ル、ヤ神道西部管長ヲ命セラレ次テ部分之令アル
ニ際シ第一部ヲ擔任シ客年更ニ直轄公許ヲ得現今所屬
教導職モ亦少カラズ就テハ自今右教會ヲ獨立シ管長ヲ
立置キ出雲大社神道教ト稱シ教會統轄之基礎ヲ確定致
度候條至急御許可被下度此段相願候也

明治十五年二月廿日

大教正千家尊福印

内務卿山田顯義殿

書面願之趣聞届候事

但神道大社派ト稱スヘシ

明治十五年五月十日

内務卿山田顯義印

別紙願御指令御傳達ニ付テハ向來神道事務局ハ會同事

務取扱候細目ハ何レ追テ商議之際不相漫候條御指令確
収迄ニ候ニ如此候也

大教正千家尊福代理

少講議鶴田豊雄印

明治十五年五月十日

神道事務局御中

過般各教會特ニ願御聞届之際各自其派ト可相唱音御指
令相成候得共元來派ノ名義タルヤ一個ノ宗源ニテ其
中ヨリ分レタルヲ相唱候義ナレハ今宗源無之者ヲ派ト
稱スヘカラサルヤ昭々タリ右ニ付今後其派ノ名義相改

メ各自其教ト相稱度候間此段御聞届之程一同連印ヲ以
テ奉懇願候也

神道實行派

樵中教正柴田花守印

神道神習派

中教正芳村正兼代理

樵中教正一色高彦印

神道扶桑派

中教正実野半印

神道大成派

大教正平山省齋印

明治十五年五月

神道大社派

大教正千家尊福代理

権大教正本居豊頼印

神道神宮派管長

大教正田中頼庸印

内務卿山田顯義殿

別紙之通規約相設神道事務局へ聯合し事務取扱候様致
度御差支無之候ハ、其旨内務省へ届置度候條前件何分
御確示相願候也

實行派

中教正津田花曾印

神習派

中教正芳村正兼印

扶桑派

中教正宮野半印

大社派

権大教正本居豊頼印

大成派

大教正平山省齋印

神宮派

大教正田中賴庸

神道副總裁岩下方平殿

今般各派特立スト雖氏總裁官ハ従前之通り奉スルヲ以
テ内務省ハ對スル公用ハ事務局ハ各派ノ執事費自費ニ
テ會セシメ各自己ノ事務ヲ取扱ヒ及神道一般ノ要領ヲ
議スル際各管長會スル所ト約ス
但相互ニ他ノ事務ニ關涉セザルハ勿論ノ事

今般特立公許相成候ニ付後來規約相設當局ハ聯合シ事
務取扱候様致度差支無之候ソ、其旨内務省ハ届置度旨
規約書相添副總裁ハ御開申之趣了兼右者支悟無之候間

依余拙職ヨリ此段及御答候也

神道事務局幹事

明治十五年五月七日

權少教正太畑弘固印

神宮派管長

大教正田中賴庸殿

大社派管長

大教正千家尊福殿

大成派管長

大教正平山省齋殿

扶桑派管長

中教正安野半殿

神習派

中教正芳村正兼殿

實行派

權中教正葉田花守殿

別紙^手續之通規約相設御省へ對スル公務取扱申候条此
段連署ヲ以及開申候也

明治廿五年五月十七日

神道實行派

權中教正葉田花守印

同 神習派

中教正芳村正兼代理

權少教正一色氏隆印

同 扶桑派

中教正安野半印

同 大成派

大教正平山有齋印

同 天社派

大教正千家尊福代理

權大教正本居豐頴印

同 神宮派

大教正田中賴庸印

内務卿山田顯義殿

別紙添附紙に於て平賀、美濃、信濃、上野、下野、

管長撰定届

今般當教會獨立之儀御許可相成候ニ付テハ大教正千家
尊福ヲ以テ管長ト相定候間此段御届申上候也

神道大社派教導職惣代

明治十三年五月二十日

少教正細川利永印

中教正戸田忠友印

権大教正本居豊頼印

内務卿山田顕義殿

管長撰定届

今般當教會獨立之儀御許可相成候ニ付テハ大教正千家
尊福ヲ以テ管長ト相定候間此段及御届候也

神道大社派教導職惣代

明治十三年五月二十日

少教正細川利永印

中教正戸田忠友印

権大教正本居豊頼印

神道副總裁岩下方平殿

別紙之通轉屬ノ義ニ付各分局直轄教會ハ申入候間為御
心得此段申進候也

明治十五年五月二十日

神道事務局

神道大社派中

零歲五月廿五日附ヲ以テ諸派ハ轉屬云々及御達候處今
般神宮始六教會特立許可相成候得共素ヨリ本局ニ関涉
有之候間神宮派大社派扶桑派實行派大成派神習派ノ六
派并ニ今般更ステ黑住派ヲ總裁宮ヲ奉ニ前六派同様相
成候間右七派ニ限リ帶職ノ儘轉屬候儀差支無之候条所
屬内職ハ御達相成度此段申入候也

明治十五年五月廿七日

神道事務局 幹事

教

明治十五年五月二十日

神道事務局

明治十五年五月二十日神道大社派教者等來書云々
御達ハ出頭候義者ヨリ本局ヨリ定數正代理トシニ本局
類ノ教會被教候處相ニ失禮記登樓轉屬並成事ハ該處
未教導中ニテ政談演説ニ關リ看モ有之教務ハ該
教會ニ懇請諸習人ハ素ヨリ差支無之候得共所記ニ類
似候ナク取締上不都合ニ付篤ニ相心得候様内務卿被申
聞候趣口達云々在ノ為新第五九号ハ本局ヨリ轉屬
ニ示被テ重ニ書面ニテ奉之書ニ應相應並成事ハ該處
局新第五九号

教導職タル者教務ニ係ル外政談議學ヲ目的トシテ公衆ヲ聚メ講談演説ノ席ヲ開ク等不都合ノ儀ニ付右等之儀無之様取締可致候事

明治十五年六月一日

教導職々負録改正候ニ付職名姓名補職年月等尤之例ニ記載當掛ハ御差出有之度候也

明治十五年六月廿四日

社寺局 第壹部

何教正

明治何年何月何日拜命

姓名

同

何講義

同

同

何訓導

同

神道事務局部下教導職權訓導以上ノ者各派ハ所属教候節ハ雙方連署ヲ以テ上申可致儀ニ候得共今般談局ハ聯合ノ各派ニ於テハ同局回答書ヲ得テ其都度轉屬受

得タル管長ヨリ申出度老各派ヨリ事務局ハ更ニ轉屬左
節モ同様各派ヨリ回答書ヲ得テ事務局ヨリ申出度且果モ各
派轉屬ノ義モ同様ノ手續ニ致度候条右御座置有之度此
段連署ヲ以テ上申仕候也

明治十五年六月廿七日

神道實行派管長

權中教正柴田花守印

全 神習派

申教正芳村正秉印

全 扶桑派管長

中教正宮野 半印

全 黒住派副管長

第一編

第一章

中教正森下景端印

全 神社派管長代理

大坪派本所支所

權大教正本居豊頼印

全 大成派管長

大塚派本山支所

大教正平山省齋印

全 神嘗派

大教正田中頼庸印

内務卿山田顯義殿

書三之趣聞 局候事

明治十五年七月六日

内務卿山田顯義殿

六月三十日左之届書入致有入進重々
今般當教會別派獨立公許ニ相成候ニ付本院定規則冊之
通相定候條此段御届申候也

明治十七年六月廿一日

神道大社派管長齋藤

大教正千家尊福印

内務卿山田顯義殿

大社派管長

大社派本院定規

大社派管長

第壹章

總編

第一條

大社派本院定規

出雲大社教會ノ事務ヲ總轄スル所ヲ称シテ大社派本院
トス

第二條

各教區内ノ事務ヲ掌ル所ヲ称シテ大社派分院トス

第三條

分院部下ノ事務ヲ分掌スル所ヲ称シテ大社派支院トス

第四條

各分支院ノ部下ニ於テ教會ノ事務ヲ主管スルヲ教會所
トス

第五條

本院ノ事務ヲ分テ行務講務トス

第二章

管長

第六條

管長ハ本院ニ在テ部下教導職及教會職員ヲ總率シ教旨及布教一切ノ事務ヲ總轄ス

第七條

管長ハ部下教導職ノ進退黜陟ヲ内務卿ニ具狀スル事ヲ得

第八條

管長ハ教導職試補及ニ教會職員役賞ヲ命スル事ヲ得

第九條

管長ハ分院以下教會所設立ヲ内務卿ニ請願スル事ヲ得

第十條

管長ハ會議ノ決議ヲ不認可ノ權ヲ有シ再ヒ復議セシムルヲ得

第十一條

管長ハ出雲大社會一切ノ事務ニ付政府ニ對シ其責ニ任ス
教

第三章

副管長

第十二條

掌管長ニ亞ク管長事故アレハ其代理タルヲ得

第四章

幹事

第十三條

幹事ハ管長ヲ輔ケ院務ヲ幹理ス

第十四條

幹事ハ管長ノ意見ヲ以テ教長タル者ニ之ヲ命ス

第五章

幹事補

第十五條

掌幹事ニ亞シ幹事ヲ故アレハ代理タルヲ得

第十六條

幹事補ハ管長ノ意見ヲ以テ補教タル者ニ之ヲ命ス

第六章

屬員

第十七條

屬員ハ管長ノ命ヲ受ケ院務ニ従事ス

第十八條

屬員ハ管長ノ意見ヲ以テ教會職員ノ者ニ之ヲ命ス

但庶務會計ニ従事スル者ハ教導職外ノ者ニ命スルモ

妨ケナシ

第七章

會計

第十九條

本院經費及修繕等一切教會信徒ヨリ收入セシ金穀ヲ以テ之ニ充ル者トス

第八章

第二十條

全國ヲ分畫シテ教區ヲ置ク

第二十一條

一教區ニ分院ヲ置ク

第二十二條

一教區内ヲ分畫シテ支院或ハ教會所ヲ置リ

第二十三條

教區ノ分合改正ハ管長之ヲ定ム尤關係教區ニ諮詢シテ後之ヲ定メ又ハ該區部下教導職々員ノ申請ニヨリテ定ムルコトアルモノトス

第九章

會議

第二十四條

會議ヲ分クニトス一ヲ通常會トシ一ヲ臨時會トス

第二十五條

通常會ハ毎年一會之ヲ開リ者トス

第二十六條

臨時會ハ會議ヲ要スル事件ノ關係アル教區ノ議員ヲ召集シテ開リ者トス

第二十七條

通常會ハ尤ノ條目ヲ議定ス

一布教便宜ノ法則

二教費金額及其徵收方法

三財産監護

第二十八條

議員タルヲ得ルハ尤ニ列記スルモノニ限ル

一分院長

但長事故アレハ副長之ニ代ルヲ得

二教長

第二十九條

會議ハ管長ノ命ヲ以テ之ヲ開キ議案ハ管長ヨリ之ヲ發

第三十條

通常會議開場ハ二月以前ニ管長之ヲ各議員ニ報告シ
議案ヲ頒布者トス

當局職員録中各派所屬之教導職名刺刪除致更ニ御引渡
可申候条尤之通職名並ニ試補記載御差出相成度此段及

御照會候也

十五年六月三十日

神道事務局

幹事

神道大社派

御中

本月十二日附書面之趣了義即尤ニ御回答申候也

明治十五年六月廿三日

管長大教正千家尊福印

東京出張所

長本居豊頼殿

副長戸田忠友殿

第一条

定規第六章之通タルハシ

但出張所入用之介製造之義ハ小西有勲ハ委托候事

一出張所定規中第六章雜則ニ神札及神号ハ本院ヨリ主

所スル者トスル有之候然處六神號ハ入社人ニ都度入

用物ナキモ數ヲ要云々當所ニテ製造仕傳ルハ大ニ便宜

ト存候既ニ神札中玉串之板ハ當所ニ御所託ニ相成

儀故右六神号者前文之通取計候ハハ概制可有之哉

附則會新第二条

別紙講社名稱書之通タルベシ

講社並ニ組分名稱其他附屬講社ハ喚称方尤ノ通ニ決定ス

明治十五年六月廿二日

出雲大社教會某講社

某ハ地名ヲ用ル事トス譬ハハ杵築東村ナレハ出雲大
社教會杵築東村講社ト唱フベシ

出雲大社教會某講社某組

某ハ地名ヲ組分ノ講社ハ譬ハハ出雲大社教會杵築
東村講社宮内組又ハ森組ト喚称スベシ

出雲大社教會附屬某講社

此某ハ附屬ノ講社ノ名ヲ用ル者ニシテ譬ハハ產土講

社中附屬者計六出雲大社教會附屬並講義上唱

中六三

一結社之趣旨言明出雲大社教會附屬並講義上唱

願之旨申出候者七道有之候石八成變六替各書様様

存候得共申云右様新様方結社更張之趣旨二可成候上

見込候康毛有之候様等八其情由更張之趣旨二可成候上

出雲大社教會附屬並講義上唱

第三条

伺之通

但書目并地所等八別紙之通ニ候事

書目

書名	製本料	定價	製造所
出雲問答	拾一錢三重二毛	三拾錢	京都東洞 重森上村五郎兵衛
日样式	三錢	六錢	同
沿革圖辨	七錢五厘	二拾錢	同
大道要義	拾二錢六厘六毛五	三拾錢	同
大道問答	六錢七厘	拾四錢	同
葬祭式	二拾一錢二厘	五拾錢	同
神恩記	九錢七厘三毛五	二拾五錢	同
教會最要	六錢三重二毛五	拾五錢	同
傳統略	六錢	拾錢	同
同一枚摺	三錢七厘四毛	八錢	本院製表造係

[illegible]

長

詞之通

第四条

但製本之儀本院出板同様タルハシ若シ体ヲ異ニスル儀ニ候ワレ其筋ハ届方モ有之候条前以テ雛形相添申出可有之事

一出張所通覽其章極中下款二本流出教書
大必書山台之候得ハ教書諸君名額半附大出所
三候得五或ハ本極二候得ハ七五不書已教ハ

七月四日付、書面二通、
當教會所屬襖社派名公稱之義本月十日附、以テ御許可
相成候、付、右襖派教務ノ義當教會所屬中教正戸田忠友
ヲ以テ總理為致候条自今該派ノ義、付御省ハ願同届等ノ
書面一切同人ヲ代理トシ進退可致候間此段豫テ御申
候也

神道大社派管長

明治十五年六月廿三日

大教正千家尊福

内務卿山田顯義殿

先般當派東京出張所設立候付該所長副相定置候條今般
當派教務ノ都合ヲ以テ該所長權大教正本居豐顯等リ代
理ノ名義ヲ願同届等仕候儀可有之尚又同人不在中ハ同
新副長中教正戸田忠友ヨリ進達為致可申候條此段豫テ
御届申置候也

神道大社派管長

明治十五年六月廿三日

大教正千家尊福印

内務卿山田顯義殿

札幌根室函館縣管内教會擴布并開拓起業取扱書

札幌根室函館縣管内於テ出雲大社教會擴布并神札校布之方法ハ別紙擴布假規則照準可取計事
開拓地荒起之費用ハ別ニ金四ヲ渡サス神札壹万俵ノ初穂金
（本俵三錢ノ積ミテ三百円也）ヲ以充ツキ事
但神札原費前納ノ定則ナレバ初年ノ分ハ開拓費ヲ輔
助スル為十ヶ月間延納トスル事

米川下渡ミ分ハ
極至申ナリ

愛知縣以東
所屬教區職
年報別紙之函本渡ミ可
達相成候間則相違事

明治五年八月
神道大社
東京出張所

所屬教導職

開拓地ハ教院ノ所有ト據當者ノ所有ト區分スル事
別紙戊第三號内務卿達貴流分及御回候衆受領証御回育
之度候也

神道事務局

庶務課

明治十年七月十二日

神道大社派事務局御中

神道副總裁

前記教區三ツ以テ而
務卿ヨリ神道係分及
通達係石官令ノ宛
守セサルハナリナル義
ハ無論ナルノミナリ
司本教區教育ニ係
合候趣ヨリ候得
今後二層注意シテ加
ハ信徒心符達ニ
點檢ヲ要セテ早
祈禱ヲ請ホカ
之候ハ大並要致
十五草ニ其全キ衛生
手續ヲ説明シ更ニ
療ヲ用セサル後
ハニク下

來教導殿中實効ノ可觀者少ク甚歎息ノ事ニ候向來教導殿
中協和奮勵ニ理論ニ末流急度實効相立候様希望候事

明治十五年七月 一品懺仁親王

教導殿中 實効ノ可觀者少ク甚歎息ノ事ニ候向來教導殿
中協和奮勵ニ理論ニ末流急度實効相立候様希望候事

明治十五年七月

中教正宮内省宮内省

大教正宮内省宮内省

同 國司 供伯利府印

中教正西川派宮内省

同 國司 供伯利府印

中教正宮内省宮内省

同 國司 供伯利府印

同 國司 供伯利府印

同 國司 供伯利府印

同 國司 供伯利府印

同 國司 供伯利府印

同 國司 供伯利府印

同 國司 供伯利府印

同 國司 供伯利府印

戊辰四月

神道副總裁

神佛各管長

自今各自其部内へ告達、内制例規則ニ係ル者ハ其都度當省へ申報スル此旨相達候事

明治十年八月廿日

内務卿山田頭義

明治十年九月二十日
式部寮雅樂課御中
未五日出雲大社東京出張所
神殿建築并地鎮祭執行之
節奏樂之儀二等伶人東儀幸芳四等伶人多久直六等伶人

多忠加賀、依頼致度候間此段及御届候也

明治十年九月二日

式部寮雅樂課御中

神道大社
東京出張所副長

中教正倉田忠友

旅費定則先般御回ニ相成正領承然ニ横濱之儀者尋常規則
ヨリテ難論次第有之別紙之趣小西統理及出納課ヨリ提議
相成既去七月一日同所ヨリ出張願出差向キ候事柄故先別紙
仮定之通取計置候得共右ニ治定致可然哉一應御照會迄
開申候也

明治十五年八月廿八日

出張所副長

全長 戸田忠友
本居豊頼

管長千家大教正殿

追々本係御許諾ニ御座候也。別紙御考ニ御座候相成候也。

旅費定則之儀、素テ本院ノ相廻候條款ニ有之候得共、横濱出張之儀、右規則ニ準テ難致候。然レ追テ規則モ治定可相成、ハ存候得共、當分之内、左表之通、假定支給相成可然哉。此段及御悞議候也。

十五年六月

所長 副所長

統理 出納課

出雲大社教院派出横濱片旅費

旅費等級	一等	二等	三等	四等
職名	大教長	教長 副教長	輔教 智事	教會係 仕
片道汽車賃	九拾錢	六拾錢	三拾錢	三拾錢
日當	七拾錢	五拾錢	三拾錢	三拾錢

外ニ從者一人ノ雇料及汽車賃ハ招請主ヨリ謝儀カラハ其内ヨリ以テ自辦スル者トスモシシテ先クハ實費ヲ檢シ仕拂フベシ

八月廿八日 附横濱出張旅費日當御同出之趣聞届相成候。余此段本係ヨリ申進候也。

九月六日

調査係

出張所庶務課御中

九之達書不托神碑而詠讀教導雖屬保保和所宜爲重
臣等因臣等時上之三書奏出苑所相問一候重
辭儀上送引導之儀於宮城縣別紙寫之通布達候就示心得
達無之樣注意可致為忘此段及御達候也

明治十五年九月十六日

内務省
社寺局
印

葬儀神官僧侶，取扱久已勿論，義有送方引導卜唱（單）法名
并引導，文而已授受候儀，不相成候此段布達候事

明治十四年三月

宮城縣令松平正直代理

宮城縣少書記官和達子嘉

何講義何某以下何名卿諱令書何通御迴相成正領叔夫
連方取計今人請書連子取纏進連任候也

大社正副管長

何教正何某

年月日

内務省

社寺局御中

過般各教會特立願御聞届之際各自某派ト可相唱旨御指
令相成候得共元來派ノ名義タルヤ一個ノ宗源ニテ其中
ヨリ分レタルヲ相唱候義ナラ今宗源無之者ヲ派ト称ス力
ヲサルヤ昭々タリ右ニ付今後其派ノ名義相改メ各自某教ト
相稱度候間此段御聞届之程一同連印以テ奉懇願候也

神道實行派

袴中教正柴田花守

神道神習派

中教正芳村正秉代理

權少教正一色氏隆

明治五年五月

神道扶桑派

中教正実野 半

神道大成派

大教正平山省齋

神道大社派

大教正千家尊福代理

權大教正春居豊頼

神道神宮派管長

大教正田中頼廣

内務卿山田顯義殿

九月廿四日奉命今午五時教正出頭候御申束候旨見出候御事候

應仁、建永、長祿、享和、明治、大正、昭和、平成、令和、美出候事

派名改称之儀并願

本年五月中某派ノ名義相改ノ各自某教ト相称度者神宮派始六派連署ヲ以テ出願致置候處今以テ何等ノ御沙汰無之右ハ某派ト相称候儀宗名ヲ公言シタル者ヨリ別立シタルニ非ザルヲ以テ布リハ某教ノ名称相改候義至急御聞届被下度重ハ派管長連署ヲ以此段及重願候也

神道實行派管長

明治五年七月廿

中教正柴田花守

全 神習派管長

中教正芳村正兼代理

大講義宮城利介

全秋桑派管長

中教正安野 半

全 黒住派副管長

中教正森下景瑞代理

大講義根本真苗

全 大成派 管長

全 御嶽派 管長

大教正平山有齋

全 神宮派管長

大教正田中頼庸代理

桂中教正落合直隆
全 大社派管長

大教正千家尊福代理

桂大教正牛辰豐額

内務卿山田頭義殿代理

参事院議長山縣有朋殿

書面願之趣附届候事 各地方廳司馬共進

内務卿山田頭義殿代理

明治十五年十二月二日

大藏卿松方正義印

八月十四日老之佃書内務省(連達)

御省成第三號ヲ以テ病者ヨリ禁厭祈禱等請求ノ節ハ先
服藥ノ有無ヲ証明セシメ果シテ醫師診新施療中ノ者ニ限リ其
望ニ應シ不苦旨御達ニ相成候處當欲ノ儀ハ醫藥禁厭ノ法ヲ
制定シ玉ヘバ大國主大神ヲ奉教ノ主神ト專信致候付大道
要義第十五章ニ醫藥禁厭ヲ創メ玉ヘバ神慮ヲ奉體シテ衛生
ノ務ヲ全クスヘキ事ト記載候通平素醫藥ノ重スヘキ衛生
ノ心ニ又ハカラサレ儀ヲ懇諭致シ信徒ヨリ祈禱請求ノ節ハ必
服藥ノ有無ヲ尋テ尚前記ノ趣篤ト訓示致候然レ成第三
號御達ニ付テハ今後一層信徒中ニ懇諭可仕候處不明瞭ノ慮者
之別紙以テ相伺候條至急御明示被下度此段相伺候也

明治十九年八月

神道大社派管長

大教正十家尊福

内務卿山田顯義殿

書面之趣左之通可心得事

第一條 伺之通

第二條 代人ノ口演ナシト雖モ服藥無相違旨信保候

分ハ伺之通

第三條 神官ニ儀ハ指令ノ限ニ非ス

内務卿山田顯義代理

明治十九年十月七日

大藏卿松方正義



第一條

服藥ノ有無ヲ証明為致候儀ハ本人又ハ代參者ノ口演ニテ宜敷儀ニ候哉

第二條

當派信徒ニ於テハ平素醫藥勿レカサレ候懇諭信徒致居候得ハ祈禱請求ノ為奉詣候者ハ代人ニテ服藥ノ有無詳ナメト雖モ右醫藥制定ノ神慮ヲ奉依スル信徒ニ限リ請求ノ通祈禱致シ遣シ尙為念代人ハ服藥ニ注意シ治癒ヲ誤リテ神慮ニ不悖候懇諭致候テ不モト哉

第三條

祈禱禁厭ハ獨教導職ノミナラス各社神官ニ於テモ執行候向有之候處素ヨリ神官ハ派内ニ關係不致儀ニ候得共教導職

訓達、都合有之候条、右神官卜雖氏教等職同一傳、可
相心得候哉

神道副總裁

神道各家長

黒住修成派ヲ除ク

故尊願ノ内教派分立以前、補任ニ係リ各教所屬志願ノ
者ハ此際其旨為申出共其長、於テ取纏ノ副總裁連署ヲ
以テ可届出此旨相達矣事

明治十五年十二月一日

内務卿山田頭裁

従前府下諸町區上ニ番町四十七番地、以テ神道方教派
東京出張所卜稱シ、東京府政事長先般願之通、若右詳
可相成矣、今更ニ神道大社教本院東京出張所卜改稱矣
案此股神由申上矣也

神道方社教家長

大教正千家尊福代理

明治十五年十二月十二日 權方教正水居豐額

内務卿山田頭裁

從前下藝田邑上二番所四十七番地ヲ以テ神通寺社流
 馬並出所卜和之事務取取奉候外去十一月六日願之通
 教名所移可也此候奉今般更、神通寺社教本流奉出所
 所卜改稱仕候奉此段申上候也

神通寺社教奉也

古教心字字重福也

明治十五年十二月十二日 權左衛門 本寺領

東多利寺寺月野心殿

敬告、威之輩各勾部内ヨリ各教所屬替之候、有テハ動
 モスレハ該勾ヨリ苦情申立其替替ニ日子ヲ考ヘ候可
 不敷候方、向ハハ紙手続之通リ取取方お定候奉此段申
 照會申候也

神通寺社教奉也

明治十五年十二月廿日 權左衛門 官場馬成

神通寺社教奉也

古教心字字重福也

甲子乙子

神通寺社教

各歲土月中教
 神職之輩所屬
 人換手續之儀
 行及御照會候
 追々書之文
 思訂正ヨ加意
 教乙第ニ号
 過三候間有様
 所承知相成度
 神相添此段
 下進候也
 神通寺社教
 神職事務局
 幹事
 神通寺社教
 各教所屬
 文據之者有之

候節取扱向還
後左之通相
候此段相
事
神道御裁
岩下平

教旨云下段
通

各教云下段
通

本局云下段
通

各局云下段
通

本局云下段
通

六本局ヨリ各教
轉属ノ旨ヲ

分局ニ乞フ許諾
書ヲ得テ信長

ハ差出シタルモ
ハ右承諾書ヲ

添(其後長ヨリ
更ニ本局副後

往來移身殿ニシテ
准之各教ノ所属文據之者有之候爲
扱向還々其申居候ハ今迄方之通
相定候条此段方之通

神道御裁

明治十五年十二月

岩下方平

一教旨ノ信仰ニ依リ或ハ事故有之所属轉属セント欲ス

ル者ハ直ニ各教ノ願書ヲ出スモノトス

二各教其所属ヲ承諾セハ差出ノ有無ヲ本局副總裁ニ照

会スルモノトス

三本局ハ若長照會書ノ旨意ヲ誤ル爲メ通牒スルモノト

ス

四各局右通知牒ヲ受ケ事故アルモノハ書面到達ノ日ヨ

リ三十日間迄ニ本局ニ誤差函ヲ具申スルモノトス

但本文三十日間ニ具申セサレハ事故ナキモノト認

ム

五本局ハ方四ノ如ク日數ヲ猶豫シ或ハ書面ヲ受理シ各

教旨ニ其可否ヲ回答スルモノトス

追テ本人ヨリ各教ノ轉属ノ旨ヲ分局ニ乞ヒ其許諾書ヲ

添該書ハ差出シタル者ハ方二分ノ内四日ノ内統テ十

サ、ルモノトス

但本人ノ代リテ書キヨリ分局ニ照會シタルモノハ本

文ニ準テス

一月十六日在之書面本局、並出

教導職各教、所屬替之儀付向後御局甲第三号御達手續書
面之通り取扱方御決定御照會之趣管長承諾付別紙副紙
載宛差出申候此段御回報旁拙職、申進候也

神道大教本院幹事長

明治十六年一月七日

少教正金子有卿

神道事務局幹事

権少教正宮崎富成殿

從來教導職各教、所屬交換之節取扱向區々相成候、付今般
甲第三号御達書之通り手續御定之趣當教、於于モ其存無

之候係此段御承知被遣度候也

神道大社教管長

明治十六年一月七日

大教正千家尊福

神道副總裁

岩下方平殿

結社授與品取扱内規則紙之通改正相成候条御承知相成度
此段申進候也

神道大社教本院

式務係

第百十九号
結社授與品取扱
規則改正付、ハ本
之趣、了、其右愛
取扱号之義別
御達書改
成候、付御達申

同奉書
朱守年形
各一枚
候
之度此段及貴

神道天社教本院
不氣出張所
庶務課 徳中

神語
鑑札

朱守 鑑札

鑑札

以下初糴ノ多少ニ拘ラス一般平等ノ取扱ヲ為ス不_レ尤_ニ如_ニ



但一講社中、授與スル品物は是迄ノ通り

府
縣
沖繩
縣

明治十六年二月十四日
內務卿山田顯義

神道副總裁
神佛各管長

卷三十一

精撰ハ勿論徴兵服役ニ該ルキト否トノ條項ヲ詳記シ管轄廳
照會ノ上寫相添當省ハ伺出ヘシ此旨相達候事

明治十二年二月十四日

内務卿山田顯義

明治十六年二月十七日内務省社寺局ヨリ試補出願之件ニ付面談
致度旨申来候ニ付本日自分出頭致候處磯村氏ヨリ口達ノ旨趣
ハ別紙附書之通ニ今後教導職試補撰奉之係地方廳ハ
照會書ハ普通之書面倅ニテ都合ニ付惣テ紙紙字之兵
役係ルト否トノ區分巨細記載又詳細之回答ノ字相添
申出若地方廳ハ適宜ニ依テ答面之回答ヲ不得時ハ右照會
書之字ヲ添テ差出シ不申候テハ採用難相成旨續々口
達有之候事

教導職試補申付出願ノ心得

一一名充特別ニ出願スヘキモノ

一貳十年未満ヨリ二十年ニ至ルモノ

兵役ニ該ルト否トノ區分ヲ特別ニ詳記スヘシ

一二十一年ヨリ二十三年ニ至ルモノ

常備軍編入年限ナレハ其免除ノ故ヲ詳記

スヘシ

三二十四年ヨリ三十年ニ至リ豫備後備軍籍

ニ在ルモノ

該軍籍編入ノ年月ヲ記スヘシ

一 成へり教名一同出願スヘキモノ

一 二十四年ヨリ三十年迄ノ者ト雖モ豫備後
備軍籍ニ在ラサルモノ及ヒ三十五年以上ノモノ

二十四年ヨリ三十年ニ至ルモノハ軍籍中ニ在

ラサルヲヲ明記スヘシ

學術

性行

履歷

○

本者月未届書式未了知ノ者冬心得ル申立得共自必通
相成リテハ如何ト云云其先年社寺ヨリ秘達書式

取為念呈直仕置也

十六年二月

山田通良

古新教書式並所

應務簿中

本局定之四号

一 教員職六級以上之輩東本着費

但神道神學以上及黑住修成兩派家長之者亦ハ其都

後出へ

一 教員職中初官官進退

一同改姓名并轉籍死亡

右届書式出方區々相成居共自今本人届書ハ事務局

二苗置部類ヲ分ケ每一ヶ月分フ、別紙書式ニ準シ取調
翌月五日迄ニ可届出此段及通達也

内務省

明治十四年三月十一日 社奉旨

神道事務局

里住修成西派系中

追テ是迄美知来美届書、内散集殿所修進退届并七
級以下散集殿着奏及改年届等ハ以美知来、不友美
也

散集殿之級以上東京着奏届

月日東京着

取姓名

月日東京出立

同

右誰以下何名客月中着奏申立美分步標之通奏系此段及
御届美也

神道副總裁

年月日

姓名

神道里住修成派系長

取姓名

内務卿宛

初官章進退届

何知何国河部河村

年月日何國河郡縣年日月方姓好取姓名

何種の

河府華士族平出

年月日 支領人姓名

河神社
祝詞
祝詞
祝詞
祝詞

河知府河國河都河村河

河神社初臺

年
月
日
張

年月日 為戚好奉願姓名

右誰以下何名祠官掌進退正聞廟奏音客月中申出之分朱
標之逐々案此股及正申也

神通副總裁

年
月
日

姓名

神通修成派五長

賤姓
名
予

内膳卿亮

改名姓廟

何有華士族平氏

和言十八

河有河圖河部河村

河神祠記

年月日河内縣名聞

年月日考殿姓名

同

同

同

同

同

同

右誰以下河名改姓名聞廟、方若月中申出之分若釋之通
之系此段及以由也

神道副總裁

姓名

年月

神道修理所長

内務卿宛

殿姓名

轉籍廟

河内縣河内郡河内縣地
社華

或ハ河内縣籍

利官堂十八

河内縣河内郡河内縣

河神社祠

年月日河内縣河内郡河内縣
年月日考殿姓名

或ハ從前河内縣河内郡河内縣
加入河内縣地

二轉系一記入レ

日

日

日

日

日

日

右誰以下河名轉系の聞由、各等月中申出之、分番擇之通
ノ系此段及已届也

神道副總裁

年月

姓名

神道修驗派長

職姓名

内務卿

死己届

河嶺華士務平氏

河嶺十一

河嶺河嶺河嶺河嶺

河神社祠堂

年月日方殿為奉職姓名

同

日

日

日

右誰之下河名記亡考旨書月中申出之台為標之通系此
股及口通り也

神道副總裁

年月日

姓 名 下

神道修成派長

取 姓 名 下

内務卿宛

御諭達書奉書ノ後ノ月日

去年七月敍奉殿々場ノ後ニ有リ諸達者之類ヲハ同年九
月副總裁峯下方平ノ副書ヲ以敍奉殿一收達書ハ各敍
書長ヨリ部下一般一可收達方別股以達無之且副總裁ヨ
リ修成派無之ニ有リ右副總裁達ノ後ハ全ク神道事務局迄
下致奉殿ニ而已係リ各敍所屬ノ者ハハ關係無之致ト存
在ハ各敍々奉殿ヨリ奉書書出矣向予又趣ニ傳聞仕
候然ルニ前文ノ次方ニ有リ大社敍ニ於テハ所屬々奉殿一
通達不致罷在ハハ愈副總裁副達ノ通各敍ニ於テモ取付
不申書ニハハハ大社敍ハ第々所屬々奉殿ノ者有敍上
勅勵スハキ方出居リ条部下一同ハハ已諸達ノ書上

當教事務所在地之儀、付御照會之趣了、兼即別紙之通有之儀、此段及御回答候也

神道大社教

明治二十三年三月十三日

東京出張所

埼玉縣御中

別紙

東京麹町区
上貳番町四十七番地

神道大社教本院 出張所

右之通有之候

但本院、島根縣出雲国神門郡杵築村八十二番地三候、得與貴縣、御照會等之義、八都下當出張所より取扱候儀、有之候事

丙三四

神道大社教本院東京出張所より祠宇より引直願

御府下麹町區上二番町四十七番地大社教本院出張所之儀、八明治二十三年四月御届申上候後、教務取扱方、尚又同年五月八日御届申上候通、神殿講殿等、建築候處、今般島根縣下出雲国神門郡杵築東村大社教本院、於之客年一月戊寅一号之御達、基より同院より祠宇より引直、連字筆遣、大社本院より相称、之度旨、該縣出願、之許可相成候付、之當出張所之儀、之今般祠宇より引直、之當教之主神より鎮祭、之葬儀、靈參等より執行、之且、普々衆庶より拜候様致、之度、別紙書類相添、連票より、以此段相願候也

申聞ク奉旨書ノ御ハ私義部下一同、代リ美公義孫仕度
此段至急奉旨書也

明治十六年二月十四日

神道寺社教長

大教正千原孝福印

神道總裁

有栖川敬仁親王殿下

客月十四日付テテ總裁官以論達書之儀、有日同書之
趣執達ト外見見込通テテ可然被余、旨此段被者、リは
四ノ身ノ進ト也

神道副總裁

明治十六年三月二日

岩下方平印

神道寺社教長

大教正千原孝福殿

庶民第三十五号

各管長事務所之在地之義、客年六月七日付庶民第百四十号
ヲ以テ御照會置候処、今以何等御報無之ヲ誅、撰擧之際、應答
ニ差支候余至急御報有之度、此段再應及御照會候也

明治十六年三月五日

倚玉縣印

神道大社派 御中

外五教員、唯不

大社教信徒總代

東京府東京橋元等地三自共進會常

大分縣土族

明治三十四年四月十七日

豐島久臣

同

同題町区三旁町四十五等地等

新潟縣士族

高柳秀成印

同

同題橋區南旗町等地

東京府平民

松村金次郎印

華儀依敷人信代

同下谷區南稻荷町四等地

東京府平民

河部泰三郎印

同

同題町区三旁町十二等地

東京府士族

大隅時忱印

同

同題區中六名町十二等地

東京府士族

戸田昌篤印

大社教々尊祿總代

大社教々神代名臣印

同

中教の戸田安右印

神道云社友等也

大教正千家号振代理

橋本教正孝元印

東京府知事芳川敬正殿

前書願出上り奥印候也

明治三十二年四月十七日

東京府麹町区長多松啓厚印

第七千九百四十四号

書面願之趣聞届候事

但建物落成上別紙書式準じ明細書差出ス

明治三十二年四月

東京府知事芳川敬正印

東京府管下武藏国麹町區何所何番地

一何社

祭神

由緒 鎮座原因許可ノ年月並ニ該社ニ關スル経由ヲ記ス

一境内坪數並地種

一境外所有地

耕地段別

地價金額

何棚字何地

宅地段別

地價金額

何棚字番地

一本社

何坪

一拜殿

同

其他ノ建物アレハ一棟毎ニ記載スベシ

一三木何本

一神鏡何面

其他社内ノ物品遺漏ナリ記載スベシ

一境内末社

何々社

祭神何々神

社殿

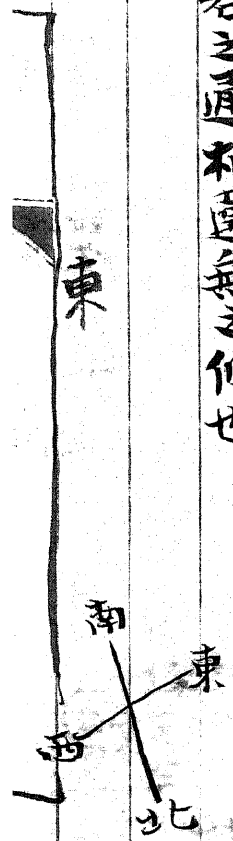
何坪

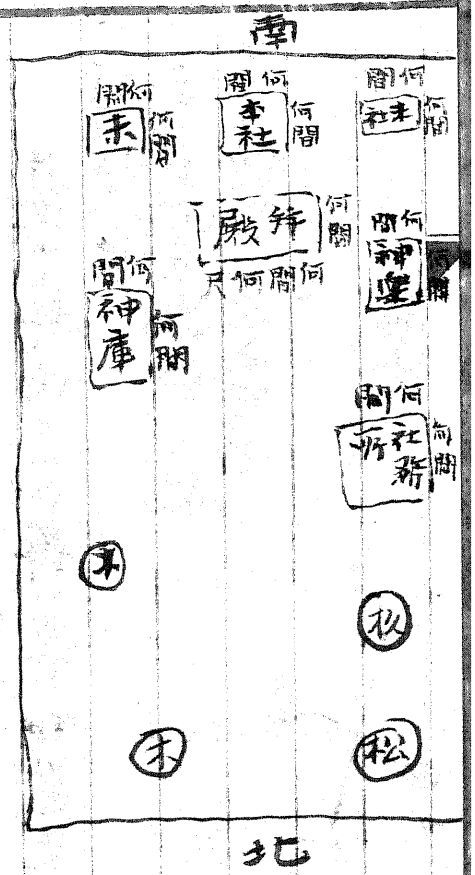
其他末社ニ附スル物件ハ悉ク記載スルモノトス

一檀信人負

一管轄廳迄距離何程

右之通相違無之候也





永續資金境內地坪盡坪
信徒人負等明細書
維持預備
一金八百圓
此利足應今年八拾圓

古八信徒及名講社
為教恩金積立候客年三月
近ノ金高

一葬儀依頼人
百二十戸
一信徒
七百五十人

一境内地
戸主
二百廿三人
民有地等差種

麴町区上二旁町四十七番地九万四千六百三十三家等
福和郎地同前四十八番地八十六坪九名三又依々不幸
見所有地同町四十九番地八十四坪五合五又神代名臣
所有地合係總坪數千百十七坪五合五又三也今般

祠宇願意御許可相成候上六千家尊福外二名ヨリ寄附致し地券書替仕候事

地坪

千百七坪七合七勺

畫坪

百八十三坪七合貳勺

内

神殿

九坪五合

講殿

七十坪二合二勺

通殿

八坪

事務所

九十六坪

右八兼千信徒ヨリ差出候數金ヨリ以建築等々

右相違無之候事

神道大社教管長代理

機大教正木居聖頼印

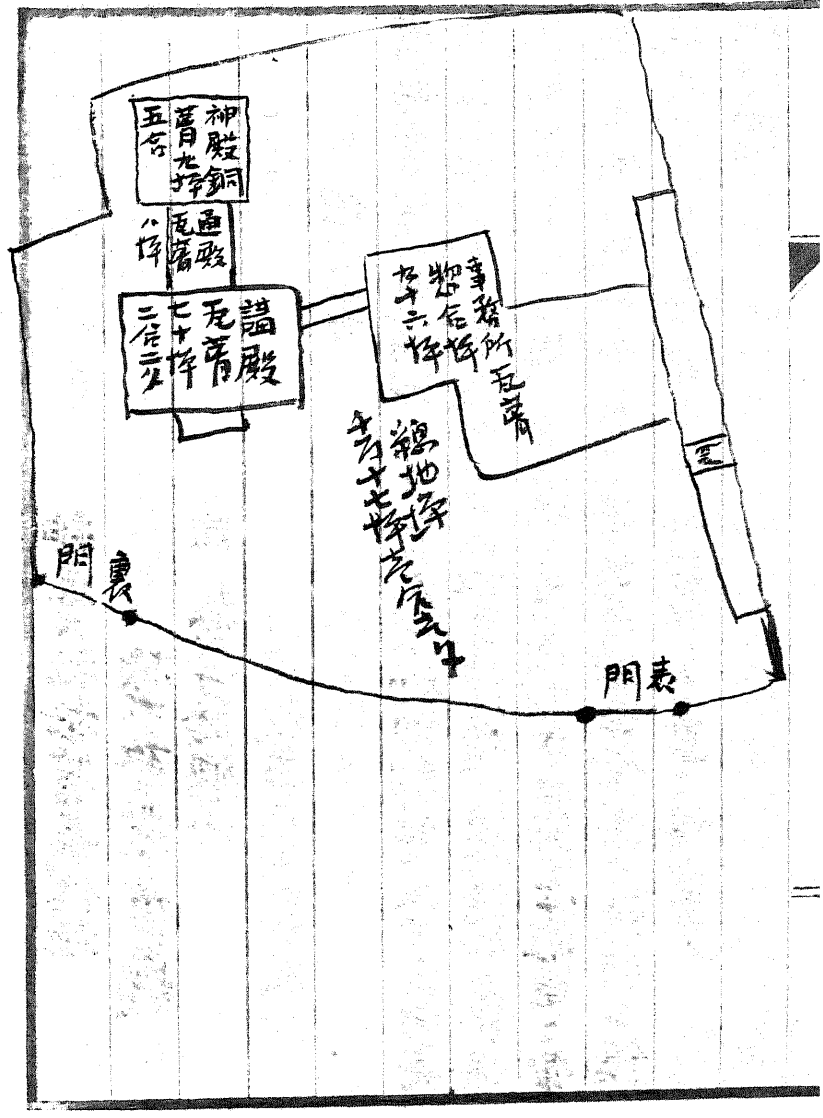
同教導殿總代

中教正戸田忠友印

理由書

當教會儀ハ去ル明治十年一月府下神田神社ヨリテ出雲大社教出張所トシ右教區在候以來陸續信徒増加ニ拜儀依弔等有之神殿ノ建築モ落成相成候間今般更ニ當教ノ主神ヲ鎮座シ自今專ラ葬儀要等ヲ執行シ信徒其他弘リ来拜ヲモ為致度主意ニ候事

總繪図



祠宇建設願文中衆庶系拜卜凡衆庶ノ二字ハ信徒ノ脚改
被下度而又葬儀依頼人五十戸ノ記載致候ノ旨篤卜凡謂
候処百二十戸有之候衆庶衆庶改被下度此段ハ依頼
申候也

神道大社教員七

大教正千家号福印

四月廿三日

社務局

望月正中殿

追々東宮局社務係、も本文ノ通り改修方申出、奉答
有之、御意也

本教初宇名称之義別於之五條定仕候付上申書仰回申候
可然御文付被遣度候也

大社左

四月廿五日

少弐守福

社奉行

甲月丙午所

今般祠宇建役被取知悉候事、其八、大社東京分祠上樺立
仕候条此上申仕候也

神后大社左及右七

明治十六年四月廿五日

大教正宇家尊福

全通

内務卿山田顯義殿

東京府知事若川顯正殿

追々本文之趣（内務省東京府）申出置候也

建礼願

當大社教本院東京出所八條歲四月卯廳并東京府、乳
海、上神殿講殿、建築致既落成、及候、并東京五月十
一日鎮祭式執行、十三日十四日迄樂典執行候事、并並
レ信徒之報告、及、お神國面之通淺草雷門前西側目
本橋南詰側芝之新橋南詰東側四谷本町南側右四

所、盡礼仕度候間此段御聞届相成度相願也

廻町区三歩町四十七番地主

神前大社教者七

明治十六年四月廿六日 大教正千家道稿

警視總監様以資紀取

書面願之趣聞届候事

但、建設之節ハ所轄警署署局出べし

明治十六年五月三日 警視總監様以資紀取



説教要略

十六年六月一日左ノ見込書ヲ家教正ニ差出

一東京各區受持ノ者ヨリ訣區ノ内ニ而三名ヲ萬實ナル人物
精撰之上申立サセ專ラ大神ノ神徳ヲ演説シ結社誘導
スル事 但、又人物精撰ト云ハ木下巳之吉ノ類ナリ

一東京府下区郡ノ内ニ而四五ヶ所派出説教所設度事

但場所等ノ義ハ各區受持ノ者ヨリ申立サセベシ事

一三宮様、毎月一日御参曲ノ爲、供物ヲ差上候様致度事

一華族中ニ而三名選ニ當教會ノ爲貴官ノ方ヲ誘導

スル人ヲ撰度事

一擴張方申付候者迄毎月五日出願之上信徒ノ星漫其

他布教執事ノ方法等憶致候實、應年ニ不神行候、
今般神殿並盛成殿ニ大奉典ニ相濟候、大變隆神行候致
度事、但出、六八規則ノ通日當、才與度事

一請負ノ内、三早出、朕退ノ者、三定置度事

一會計課卷名、三不都合、不候、今迄、名、願、負、相、成、者、
一細川利義昇級之事

職負薦奉狀

栃木縣士族

下野国河内郡宇都宮町

宇小袋町十二番地

同所宇馬場町四十四番地寄雷

宇都宮二荒山神社

三等補教

祢宜戸田香園

右奉教篤志、三漢字、可能、側、和、字、講、究、温、厚、
篤志人望、有之者、付、朱、標、當、器、之、者、凡、義、八、忠、友、候、
証候間、至急職負、申付、相成候、此段撰奉仕候也

明治十六年八月二日

教長戸田忠友印

神道土社教管長

大教正千家尊福殿

職負薦奉狀

栃木縣士族

下野国河内郡宇都宮町

宇中河原町二十八番地住

宇都宮二荒山神社

二等督事

主典 角田十郎

同平民

同上三川村

同社

同

主典 馬場弘人

同平民

同 堀田村六十九番地住

同社

同

主典 中里倭文

右三名者共奉教篤志辛當教會之爲之尽力死
在朱標當部者久八處友保証候間至急職負御申付
相成度此段撰奉仕候也

明治六年八月二日

教長 戸田雪友印

神道大社教管長

大教正 千家尊福殿

十六年十月二十日 新嘉大社大教正 千家尊福殿

在朱標當部者久八處友保証候間至急職負御申付

出請求

忠友旧領地下野国人民追々大社者へ入社せしむ同内郡国
 本村一村七郡ヲ社奉安し以て武内郡多々上向江諸地
 社奉安す據地既しハ社人負安き信加へた込見事し
 る事由安事れ廿廿日防免く武内郡者素道經年
 有る所我ハ出さる計にれめをたスハ一層奉安し
 地既し加へ可ギハ安き社奉安し乃目下は奉
 ハ我安き計にれめをたスハ一層奉安し
 社奉安し輝し団併し保持せしと欲スハ精神云々
 此下は安き社奉安し乃目下は奉
 社奉安し輝し団併し保持せしと欲スハ精神云々
 此下は安き社奉安し乃目下は奉

明治六年十月廿日

社奉安し輝し

社奉安し輝し

社奉安し輝し

社奉安し輝し

後結収所れ、式

私儀旧里、於て進々々々信仰し者有之候所、社奉安し輝し
 共中、概観、安き社奉安し輝し、可相願、候得共、差向、キ據地、者、
 社奉安し輝し、乃目下、は奉

○ 大社教會後結収所

下谷區面所三十四番地
及本縣左陸國分岐郡板橋村廿三番地

明治十九年十月廿五日

深谷市役所

大社教本役所並出長
村大並出長並金部

出雲大社

出雲大社

出雲大社

玉串頒布委託互換條約

出雲大社玉串頒布委託互換條約

並其系大社教々會結収手續概異其章其七條ノ規約
因リ大社玉串頒布擴張セリ為大社教本役所並出長

所事務擔任者及會計主任者何國何郡何村教會所
何之誰ト概收之入社信社及大社信仰之何玉串頒
布之可ト委託スル者トス

第二條 玉串ハ毎年何月何日出張所ヨリ何村教會所進送ス
ル其教會所於各所批入ノ適宜之ヲ分曉シ信任
無道漏校セシムル

第三條 玉串何教會所ノ到着スル其時當出張所
スルニ不齊ニ信ル費用ハ出張所ノ負擔スル
第四條 初穂ハ各自ノ信仰ニ任セシムル或ハ地方事務
等ヲ補セク取收シテ課金ノ費ナキ様注意スル但物
質ハ便宜ニ依リ多田ノ換ヘ其明細簿ヲ製シ各田ト共

高出地不遠海入也

和親令八王軍到之、和親日、此十月、和親トモ
何郡何所ナリ持立者、姓名及ヒ全木、明記シ、和親ト
共ニ高出地不遠海入也

和親令八王軍到之、和親日、此十月、和親トモ
領布、和親令八王軍到之、和親日、此十月、和親トモ
分ノ六之ヲ高出地不遠海入也

和親令八王軍到之、和親日、此十月、和親トモ
年、和親令八王軍到之、和親日、此十月、和親トモ
和親令八王軍到之、和親日、此十月、和親トモ
和親令八王軍到之、和親日、此十月、和親トモ

和親令八王軍到之、和親日、此十月、和親トモ

明治何年何月何日

本社教本設事書出地不

和親令八王軍到之、和親日、此十月、和親トモ

和親令八王軍到之、和親日、此十月、和親トモ

和親令八王軍到之、和親日、此十月、和親トモ

和親令八王軍到之、和親日、此十月、和親トモ

和親令八王軍到之、和親日、此十月、和親トモ

和親令八王軍到之、和親日、此十月、和親トモ

和親令八王軍到之、和親日、此十月、和親トモ

和親令八王軍到之、和親日、此十月、和親トモ

多岐之任 仍の任

十七年二月廿三日花ノ書面

監督解除請求書

忠実儀家歳五月中宇都宮ニ義山神社官司持命致候に付請
求之上出張所副長ヲ解カレ上更ニ同所監督ノ命ニ預リ不肖
其任ニ當ラズ報額ニ至ミ候得共御懇誼モ有之候ニ付拝返致
后候處今社内務有ヨリ御達ニ付右之容易ニ出京難致到
底出京ニ日ハ少ナリ任地ニ在ルノ日多ク監督ノ命ヲ蒙リ
展候ニモ有之無煩ニ至リ可申有出所監督ノ名義
御解除成度以段請求仕候也

神道大社教
東京出張所監督

明治十七年二月廿三日

教長戸田忠友印

社務大社教名七

大正五年家名福殿

祖霊社領金

常祖霊社合筆額金度而ハ事務所ハ申出可有ルヲ
左文ヲ奉書記シ霊社前老ノ方ハ延出し霊社林仕立存存也

祖霊社領金取手續及取内規

一霊社祖霊寺領金セシトスル者ハ必依取書ヲ出スハニ

但依取書ハ左ノ文例ニ準シ認ムハニ

和俊平素幽冥主宰大神信仰仕奉并祖先以来人霊主より神
祇内霊社、御祭以奉下度此段御依系申候也

何縣士族平民何国何郡何村何番地

寄附十六番籍外、寄附地ヲ記ス

年月日

何某印

神前大教東京分祠中

一鎮祭及合祭并御祭に於て八割依り署名請に記載ス

一霊社に安主スル霊宮及宮中、細ムル霊主ハ左ノ寸法御形

ニ準シ造入

但精粗ハ依自心ニ任ス

一霊宮に及霊主ハ依取人ノ年許、就テ御衣造シ又ハ古多祠

ニ於テ寺中人ノ言ニ任ス

但古今初ニ創製造スルハ四等ニ分テ安主より依取人月仕

掛ヘシムル霊宮ヲ造リテ力ナキ貧困者ハ唯霊主ニ

ヨリ造リテ霊社内ニ設ル御家台祀ノ霊宮ニ奉祀者トス

霊主製造送受モ人ヨリ古祠ニテ支弁ス

一鎮祭依取人ノ言より、傍者ハ左區別ヨリテ取扱

但月次及式年々等皆是ニ準ス

一板敷以上

神酒

八等

祭儀
二名

一板敷以上

全上

七等

全

一板敷以上

三等

六等

二名

一板敷以上

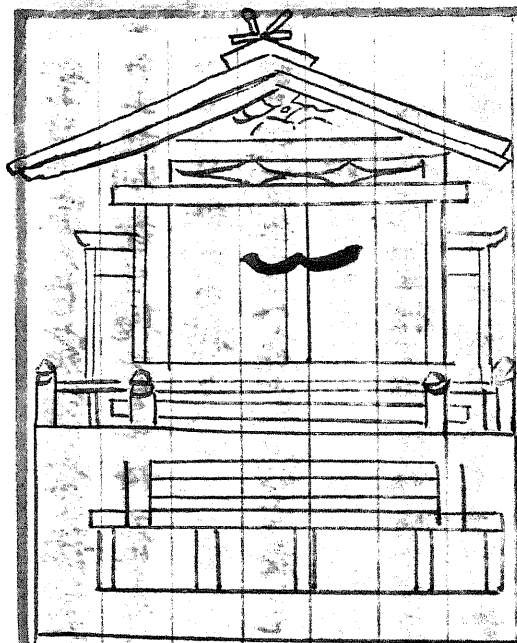
五等

五等

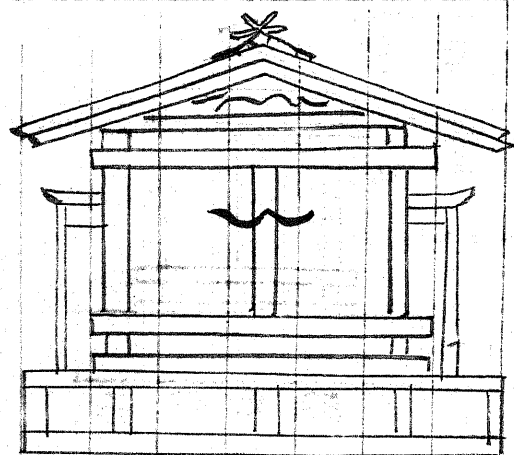
三名

八相与丁儿案案科下海云又收案者三浪行五十日
 经于室社、鍾案スハヤ事

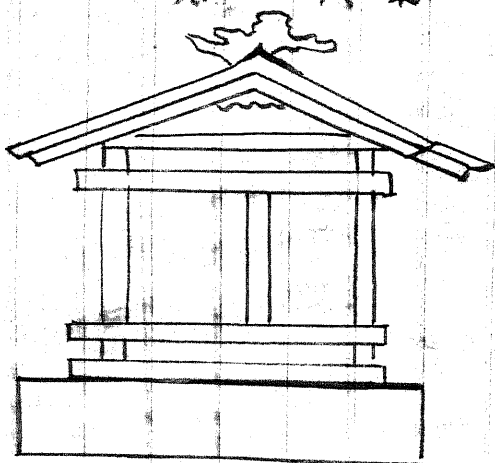
但收案ノ有云ニ不拍所長ノ息込可也于代班案案教
 下スル事有ルヘシ



紫束
 壁代
 白絹
 康張
 錦

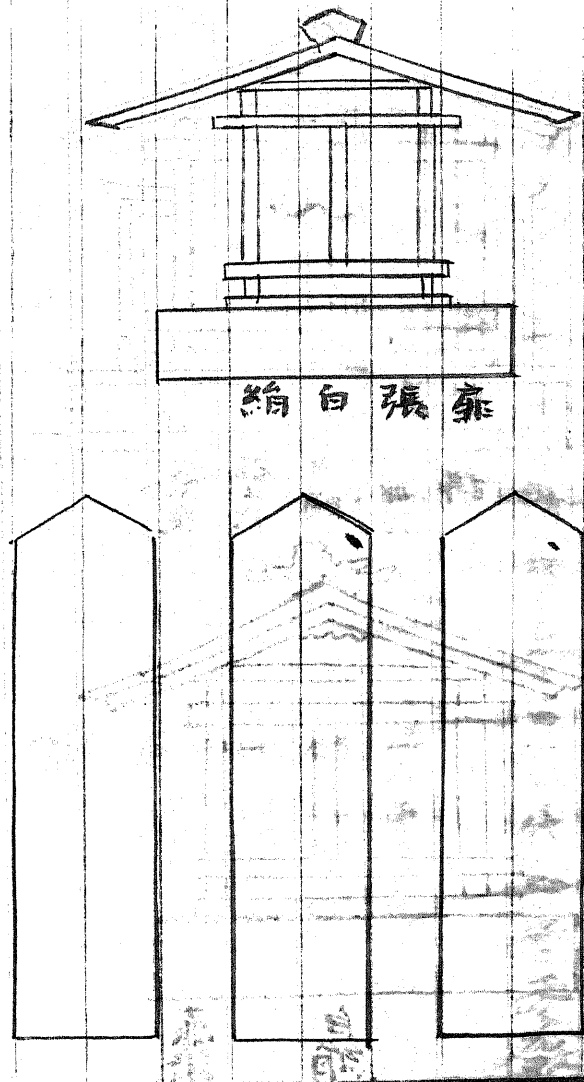


紫束
 壁代
 白絹
 康張
 錦



白絹
 康張

聖主雛形可法



記

一金貳圓

年 沖宮寺

一金壹圓

年 同寺

一金七拾貳

年 同寺

一金五拾貳

年 同寺

一金五圓

年 聖主寺

十六年五月

高田 茂

大社及寺院坐落所

何縣何國何郡何村何番地

墓所

何村何内何字何

墓所

明治何年何月何日何時歸此

祭主何氏何某

靈社鎮奉式

先將奉ハ本殿外ニ非テ開キ御簾ヲ垂ルニ靈社ハ惶テ指テ置キ
靈宮ヲ本殿階下便所ノ所高案ニ載セテ置リ

次ニ祭官及ヒ依弼人歌謡等ヲ奉テ座

次ニ本殿ノ内御簾ヲ掲グ

次ニ祝詞ヲ白ス

次ニ初給清信ト唱ルニ三度一同連唱

次ニ二拝經年

次ニ大掃ニテ靈主及ヒ祭官依弼人ヲ清ム

次ニ奉主進ミテ靈社々祀養上詞ヲ奏ス

次ニ神話 一同連唱

次ニ二拝經年 一同應之

次ニ本殿ノ外靈主ニ奉官等定テ奉レテ靈社中央ニ置キ

置リ 此時祭主以下一同靈社々々奉テ

次ニ奉主進ミテ靈主招魂ノ式ヲ行フ

此時鎮奉靈神名ヲ微音ニ唱ヘ招魂ス

次ニ二拝經年

次ニ供饗

次ニ玉串奉案及祝詞玉串ヲ出ス

次ニ奉主進ミテ奉主文ヲ白ス

此時祭官一同奉主ノ後ニ從フ

次ニ禰詞ヲ唱フルニ三度 一同連唱

次、二拜經年 一因應之

次、依教人及七親族玉串ヲ供ヒテ拜ス

但玉串案及玉串ヲ出シ指圖ニテ拜礼セシム

次、撤饌

次、案主進ニテ二拜經年

次、靈宮閉扉

次、饗ヲ垂ル

次、退出

領事前後ヲ見計ヒ依教人、若輩ヲ出ス

本殿奏上詞

此乃神殿在鎮座原皇神等乃大前年大教正從四位下家考稱此

系此時白燃今日辛若日乃良辰乃肅定玉稱經意奉設經

此位仁田事乃伊祖祖代々乃祖等祀族乃神靈乃惟神乃教

規乃任肅此大神乃知食乃出冥乃神事乃金仁奉給比度

其厚乃因經乃今蒙給乃請祈自原事乃平久安久聞食乃

代々乃祖視族等乃現聖王乃巡祀乃麻自許里乃有政察穢

此朝乃乃露乃乃乃露乃朝凡乃凡乃吹現而事乃如人據以

給比清乃經比各乃各乃現世乃存經乃時乃立乃扣續乃任汝

廣乃廣所乃今得給比強高仁高位乃今進給比玉張乃

結乃遠承乃世乃守護神止令成執比限無乃教樂母令

得給乃祈自原事乃平久聞食乃恐乃恐乃恐乃

助力蒙度此段御田答書御依申候也

明治十七年三月六日

東京出張所

監督戸田忠友殿

管長十家尊福

貴官御儀當所監督之名義解除之書面御差出相成有之候處今般別紙之通從管長回答到來并御田申候右者管長書面之通創筆取捨別御尽力之御儀之有之此上從前之通不相替御助力相蒙取申職毛深御依申上候也

明治十七年三月十九日

出張所長市石重頼

監督戸田忠友殿

十七年四月三日

講社役員薦舉狀

栃木縣上族

栃木縣下野國河内郡宇都宮

大寬町四十九番地

取締役

石田重次郎

石奉教篤志寺當番者久々拙者保証致候間朱標之通被申付度此段標奉取也

寺主地所監督

明治十七年四月四日

教長戸田忠友印

東京出張所長

市石重頼

出願主例榮山善保野女三通

私儀豫美社教々旨信仰罷在候付終身不教從事シ益教旨ヲ提
張數度志願候条詠補御申付之上ハ斐平世教々轉屬候様ニ義致
召出以不連署ヨリ奉致ル也

何府縣屬籍何郡何縣何地
寄寓者八寄寓地

年月日

何之
年正月

保証人何之說否

何之說不

神農本草經

用紙美濃和紙三層

保証書

何_縣華士族平民何國何_郡何_村何_所蓋地

何 傑 謹 年 亥 支 千 月 日 生

右神道天社教旨信仰ニ付給身本教宜布ニ従事致虔志願ニ候間此段建
署保証仕候也

年月日

右
何
條
誰
印

何縣何士族平民何國何郡何村何畜地

親族何條誰訂

園

Q

學師又與
候証人 何條詮印

神道社教本度

御中

神札配布願件

神札配布規則

一 神札配布セシト欲ス者ハ其郡村姓名ヲ詳記シ所轄教會所ヲ經由シテ本社教東京分祠へ出願ス可シ

但教會所未設ノ地直ニ分祠へ出願ス可シ

一 神札料ハ板至串金壹圓中福神像金壹圓五匁ハ福神像金七匁ノ額ヲ以テ配布人へ交付スルニ付配布人ハ之ヲ信徒へ配布シ其

初穂金定額超スル配布人ノ所得トシテ布教費ニ充ツ可シ

一 神札料ハ半額ヲ前納トシ半額月神札到着日ヨリ三月ヲ期シテ上納ス可シ

但前期神札不納者ハ神札下渡ヲ願フモ交付セザル者トス

一 二年以上引續キ同地方ニ配布シ其功勞ナル者ハ其地方擔當ヲ申付セテアル可シ

但弊害ヲ醸シ又ハ布教上差支ヲ生スルハ廢止又交換スルヲアル可シ

一 引續キ配布セシト欲ス者ハ其年八月廿日限り東京分祠へ出願ス可シ

一 神札運送費ハ東京分祠ニ負擔スル者トス

一 神札ハ凡テ通運ニ付回送スル者トス

但至急ヲ要シ特ニ郵便ヲ以テ送附ヲ請フハ其費用ハ配布人ニテ

支拂可也

一神札授布セトテ下渡ヲ請フ者ハ書面ニ神札料金半額前納之
分相添ハ額出ス可シ

文例

私儀何縣何国何郡内ニ於テ御教神札授付仕度候無別致之通御
下渡以下度儀ヲ前納金半額何程相納メ申候條殘額ハ神札御下
渡ノ月ヨリ向フ三月間ニ無相違納可申候様一並引化候テ如何
様ニトモ御督促ニ預リ候モ否不申上候此組係証人連署ヲ以テ
御願旁書差出置キ候也

何国何郡何村何番地

年月日

本人

何 兼 誰 印

全 全 全

係証人 何 兼 誰 印

大社教東草分祠

御申

別紙

神札授付者

何村

何村

板玉串

若干

料金若干内

*額 若干 今度納
残額 若干 五月間納

中福神像

若干

料金若干内

王額 若干
残額 若干

十福神像

若干

料金若干内

右之通相違無之候也

年月日

何年誰印

明治十一年三月四日在、辭令受取

大社教務本縣下野分院建築候處兼而謨縣下布教上總理
監督之儀御委批申置候次第有之付建築之付テ之請事
統轄連、竣功候様御尽力被差度此段御委囑申候也

大社教

明治十一年三月四日

役七位三位十家若福印

大社教監督戸田忠友版

十八年三月四日在、撫筆被受取

殘欠撫筆狀

宇都宮二葉山神社

神主戸田香園

主典角田十郎

主典中里俊文

主典福井根八郎

右之者、願書生標之通傳申付相成付々年迄執務、力

何分之得結果可申ト有テ撰筆也

明治十八年三月四日

乃由本方之

神方之

乃由本方之

結社核与社内規

范四上

六神号 日持式 諱辭集三 鑑れ 本札

五枚以上

六神号 日持式 諱辭集三 鑑れ 本札

三枚以上

六神号 日持式 鑑れ 本札

五枚以上

六福神像 鑑れ 本札

五枚以上

六福神像 鑑れ 本札

右ハ一ノ神定元者ニシテ家族ノ多寡ヨリ鑑れノ数ヲ

増減スレト魚尾アリ云祀ノ金額ヲ納ルルハ記載ニ準リ

援立可取振テ者トス

三枚以上ニ神号アリ 大福神像

宇都宮分院

所用印章之儀ハ、雖形通調製可致事

七年二月廿八日 大教寺系出此所

大社教
宇都宮
分設印

但
寸法若干分角
ノ事

大社教字
都府分設
何ノ課印

但
式部庶務出納ノ三課
印ハ各若干分角ノ
事

其他事件ハ奉勅致奉スルニ違フ事ニ由テ熟考スル後未タ何様ノ
策略奸智ヲ固シ終ニ奉教ノ最微ヲ醸ミ去テ神徳ヲ活シ至リ續
キテ後モ公并出方ノ面目ヲ失フニ至ラズ信徒等愚意甚廣ノ余
ハ遂ニ紛糾生ズ是レハ田舎園初後ハ皆藏ノ如キ事ヲ管長親
見ル原因ナリ出方ニ病ヲモ知所人物ハ思ハサキ然レモ監督ノ責

是等ノ罪ハ通逃スル所ナシ仍テ前件紛糾迄願キ略記ニ籍ニ奉展提督
君ノ閣下ニ開申ス成致ハ管長君ノ御懇談上非常ノ英斷ヲ以テ田舎
見狀地ニ至リ五千坪ヲ却テ又同令リ出願許可相成ル下野有段諸道在
義ヲ廢止スルノ處違フ事ヲモ知悉シ御意方違々ニ至ラハ臆テ唯
ハ悔在ラズト深ク痛心甚慮年足ヲ指トコト知ス仰希久生方ノ恩
直ニ個案賢考在ニテコノ領方

明治八年四月十三日 田舎方

大社教出此所提督方長聖殿

左ノ説略者事也
年月言附ヲ以テ監督御詳見相成度御書面ニ趣テ承蒙ハ御地方
ニ於テ由今貴官御詳見相成候ナハ歸而シ信徒尼解ハ勿論持事主教

爲不容易義工有之付十八是非共此僕猶擔任之役御座申度又主佐者
 有斷云々是方も由有之自今半方ノ隔事々今ハ弱子ヲ振之役操成て
 其弊ヲ之陽計集トモ可キ成元何分御且之ノ我モ憐て不包憐申就之ノ我
 以考因旅之衆ヨリ請取事出方以共之我ノ由是之候也方ヨリモ方
 以從旅之衆ニ取取之役取事以同是之役也

癸卯年四月十三日

千喜字福

天田重五郎

本月六日付據陳述太翁後歸稱表翁李壽年牛遂西移云云其完
信云翁在江右各處親事家室之罪勉恐其降犯等之田隨歸於姑諒表
翁輔庇信有後矣信者等云追之塘頭裏行來汝堂基礎未定
但其在野之老樹尖與尖莊諸處方以釋賊者爲之八兩今尚爲信

有九解八分前後未だ其ノ方ニ容易出難書ヲ可生下條ノ要ニ
 切當時ノ事ニ對ニ論者モ方々御心施シ其ノ方ニ以テ其ノ其何
 以テ降臨方ニ御心施シ其ノ方ニ以テ其ノ其何
 一、此屋ノ後位敷申ハ其ノ八解者ニ對シ方々御心施シ其ノ其何
 一、此屋ノ後位敷申ハ其ノ八解者ニ對シ方々御心施シ其ノ其何
 一、此屋ノ後位敷申ハ其ノ八解者ニ對シ方々御心施シ其ノ其何

明治六年四月十一日

衲
查
裸

石山香園居士
書

角田十次郎中野島玄成

翠柳八

十八年四月十六日再監育

忠友儀本年本月冒監解辭免請米書云云嚴命云奉符乞處安圖忠友
罪_レ糾_レ又_レ反_レ懇_レ舊_レ直_レ論_レ未_レ請_レ米_レ書_レ却_レ下_レ相_レ成_レ若_レ愚_レ見_レ又_レ忌_レ諱_レ又_レ
開_レ申_レ云_レ辛_レ旨_レ嗚_レ呼_レ其_レ敦_レ厚_レ優_レ恩_レ何_レ又_レ感_レ喜_レ云_レ云_レ又_レ抑_レ今_レ般_レ紛_レ紆_レ原

因明治十年神宮教本部ヲ京都遷設シ淫事ヲ權變詐術ヲ逞ミ殆トモ辭妄
ニ至リテ數百田ノ負債ヲ生シ今日ノ衰微ヲ来ス覆轍アリ然ルニ今般下野
院設立ヲ計畫モ其轍ヲ蹈クミナス福田治郎ヨリ客歲五千坪畝地スル場
所ヲ能ク探索スル同人所有地ニナリ割ハ分院設立出願スル時七十畝地
ト掲載スルハ當座權限四割止郎宅地番号ニ畝地スル戸籍村番地ハ之
ナキヲ書出シ其後該村人民ト相謀リ分設畝地ヲ獨斷テ交換シ五千坪ト
ナシ其畝地中路傍ノ樹木ニ掛ル所幸ヒテ一番地ナルヲ以テ最初ノ詐ヲ
掩ヒ公然大聲喋リ談話シテ僥倖ヲ喜ブヲ聞キ右七千坪モ亦治郎
ノ地所ニハナリ該村人民三千名分ノ所持畑ヲ番地面價ヲ買上カ
ル約ヲナシ其價金モ亦已レヨリ支出スルニ非スナリ社初穂料
其他勸助金ヲ以テ買上カル策ナル由ニ漏聞セリ故ニ信徒中ニ於テモ畝

地ハ有名無實ノ詐術ナルヲ惡ミ大ニ不腹ヲ懷キ後日如何様ノ策略ヲ智
ヲ圖シ神德ヲ汚スニ至リ續キテ管長公并忠友ノ面目ヲ失フニ至ラント彼
ヲ見ルノ地渴ノ如ク思フ耳ナラス痛心苦慮ノ余リ紛紜ヲ醸生スルニ至リ
又右七千坪ヲ抵當トシ銀行ヨリ金買テ借入セ傳説カリ最旦後日
員債ヲ生シ宛解ヲ来タス然雖此ニ頭ハタリ想ヘシ戒ヘシ前陣如
ク管長公并忠友等ヲ詐欺シ表畝地ヲ賣トシ裏ハ勸助初穂料
ノ金多ク以テ地所ヲ購求スル等ノ詐術其他專行欺詐スルニ違
アラス是ニ由テ戸田番田初役金辭表ヲ見スル所以ニシテ朝友
辭表ニシテリ障リ本放ノ衰微ニ至ラト痛心慨嘆スル處ヨリ
決心シ以テ辭表ヲ見スルニ至リ其故ニ忠友ヲ短カク以テ説諭シ
和氣モシトスルハ四神等教モ格テモ和氣請書ヲ若納スルヲ能ハシ

後案より其至情に因りて其石を其所に成候事有之

明治六年四月十六日

本村より来りし所

御奉行様へ

本年四月五日に家内にて御奉行様より御書に

春暖相候處倍御清通候實不對奉存候陳者其申鶴田豊雄御地出張

際、不段御厚配り蒙候趣不堪方謝候却説下野分限設置其委員長福

田近郎處置方腹時、涉候義者之趣、是御心配り懸候段、其鶴田

豊雄より聞取詳悉、和仕候然、同人處分御見込之義、其豊雄より表及

候得共、今日突然委員長解免候事、余り不様様被存、由有損害要

償、許訟候様相成候事、却り先吹す、計り求む、究計、猶も難計付

て、彼より辭職候様運度、存候付別紙之通申遣候儀、其分限敷地之義、

御懷議申候、其際御立論被下度、若し議論一致不致雙方より申出有之

候、其際、斯行致度所存、有之候御旨置被下度、而又福田兼下渡置候

神札教書類等、別紙之通、係条漸次御入用下之場、以て御上之置被

遣度、若又其、結了不致義、候、敷地確定、斯行之節、如何様、凡取計

可申候、此段御義、百重可然、御取斗、下度、先者、御事、以て御上、此

明治十八年四月十九日

十宗号稿

戸田忠友殿

下野分限該立地所、交換之義、付是、近書面、以て、往復致候得共、實地、不明、了、付、先回

中議義、鶴田豊雄、出張取調候處、今方、不判然、之趣、付、右敷地之義、戸田監督、始

敬請殿及教務長等無任感禱謹此申出有主度會地所確係與公院
建設之關係甚大事件着手方公暫時停見在相成度會管理長等因及
御通運建也
大社教東京出張所

明治十八年四月廿六日

庶務課

下野分館建築委員

大社教東京出張所

車庫分館建築委員

大社教東京出張所

自今分館建築之關係上否上不同想于教務長等因及願同商量等

大田監督等經由之手進達可致皆相建便事

明治十八年四月廿六日 大社教東京出張所

大社教東京出張所

客月廿九日附之花南梓讀如貴說春暖相候惠益祈清康奉欣賀

此處當地本社教務長等分派御教務之件係御教務之趣延梓承高廣等

為協之至幸為幸安當于得此公事之御云置存益協等輔中及

敷地之義之件係該等不之之後御申之別之紛紜等生既而

一取之至分員申候上六甲之内之各人付立論之好天何上

八終之應藤等觀他教會より嘆笑可受カレ候介より益ナリ三宮より

上云カ知リ甚困却依于古條之店之難カ知リ又神札教者新斷

入用ノ場ヲ以テ上云々此儀ハ御教務之趣延梓承高廣等

野原敬孝等該候之應藤等觀他教會より嘆笑可受カレ候介より益ナリ三宮より

政入用ノ場ヲ以テ上云々此儀ハ御教務之趣延梓承高廣等

事不在由手渡し不申其度目在字に共不在下跡渡不申辯三何上
 思考候其折角命故取討候處皇上前件次第其後之儀多々有候者毛海軍
 致面會の上右品々夏取の事多々有候事野相傍の事毛有候事
 返る事并皇野事の二残居り相傍の事毛有候事又安然解使候事相傍
 事并趣以福田輝機杭運度内致して候到度福田の請表も毛有候事
 毛し平居人物の也八建の事并出并福田の事相傍の事毛有候事
 此上四の事并事毛有候事其由并出并福田の事相傍の事毛有候事
 福田輝機相傍の事毛有候事其由并出并福田の事相傍の事毛有候事
 自分毛有候事其由并出并福田の事相傍の事毛有候事
 所米毛有候事其由并出并福田の事相傍の事毛有候事
 本後事毛有候事其由并出并福田の事相傍の事毛有候事

御免候御事毛有候事其由并出并福田の事相傍の事毛有候事
 命下雖尼海に難し仍于先之皇軍に監防解免請表毛有候事其由并出并福田の事相傍の事毛有候事
 之度若石目限中御許可無き共断然解免上疏致し候徒中毛有候事其由并出并福田の事相傍の事毛有候事
 心得毛有候事其由并出并福田の事相傍の事毛有候事

明治十八年七月七日
 監防兵隊長友

大社
 明治十八年七月七日

十八年六月十日
 忠友非軍應り古今教道の形勢を考ふるに先年神皇教職分融其
 後多々候事其由并出并福田の事相傍の事毛有候事
 信仰に任せられ公達等有之就て八箇令布教ノ要事毛有候事
 待不然先被束留地分設置ノ件有故御甲乙ニ別て其後事毛有候事

康勝防辟還書ヲ為長十家君ニ呈シ迅速御處分ニ義請求ス下雖尼未
何等御宣分ニナリ之由ヲ布放擴張ノ事業ニ現年中坐堂敷ノ袖手
傍觀ノ外無之今後猶花其萬歳月ヲ経過候テハ為ニ事候ヲ失ヒ奉
スノ義概ニ至テナト道為一同痛ニ苦慮ニ難在候希ハ嗣後長
我君前件ノ情實深ク仰蒙建メ申乙何レ成リ凡御宣分アラニ
企地ニ至ニ地又候何テ連名ヲ以テ此段開申致候也

石田重昭
天保七年

明治五年六月廿日

福井良八郎
中里信天

川田十郎
石田重昭

石田重昭

大社文

別有七年九月多額取

十八年四月以來大社教下野ニ就給紙ノ件今般本段ノ出候所
以出候所野ニ就給紙ノ件今般本段ノ出候所
建案委員ニ
明治五年六月廿日

石田重昭

監督石田重昭

東京出張所總監擔任可有之事

明治八年五月十九日

大社教信長經家信全書

○大社教勤務中一身上進退之部

十五年三月二十二日 七ノ書面本教大成教會長平山泰三、差出

大成教會々負解除願

忠友儀此近奉會々負之末、列序罷在候處今般不得止情實有
之出雲大社教會、所屬致度候條、於八奉會々負之儀解除仕度何
卒速、御許答之程此段依テ懇願仕候也

明治十五年三月廿二日

中教正戸田忠友印

大成教會日主幹

大教正平山有齊殿

同三月廿七日 七ノ通函書、奉出

本會退社御請狀之趣了奉會々負一同異議無之候条内務有

上申之上此段御回答及候也

本教大成教會教長

明治十五年三月廿七日

大教正平山省齋

齋

中教正戶田忠友殿

中教正戶田忠友

出雲大社教會教長擔任可有之事

明治十五年三月廿四日

出雲大社教會

大教主大教正平山家尊福

請書

戶田忠友

出雲大社教會教長擔任可有之事

明治十五年三月廿四日

右御請申候也

東京府下淺草區淺草區富坂子廿番地

中教正

教長戶田忠友印

三月廿四日

出雲大社教會

大教主大教正平山家尊福殿

拜命日届

明治十二年五月十日 當職拜命 中教正戸田忠友
右之通相違無之候也

東京府武藏国豊島郡浅草区浅草北富坂町字秀地

明治十五年四月廿日 中教正戸田忠友印

出雲大社教院 市申

教長戸田忠友

出雲大社教院東京出張所副長擔任可有之事

明治十五年四月廿四日

出雲大社教會

大教主今家尊福

大教主
今家尊福
之印

御請

教長戸田忠友

出雲大社教院東京出張所副長擔任可有之事

明治十五年四月廿四日

右御請申候也

東京府下浅草区浅草北富坂町字秀地

明治十五年四月廿四日 中教正戸田忠友印

出雲大社教會

大教主今家尊福殿

出雲大社教會信仰之所屬之趣義諸致候奉自今教旨ヲ
遵守シ布教ノ實功ヲ著セラレ可シ仍テ義認收メ遵行者也

明治十五年四月廿六日

出雲大社教會

大教主大教正千家尊福

中教正戸田忠友殿

記

金百圓也

右者今般車京出張所ノ神殿所建築和成候ニ付此些少右
費之内ハ寄附仕度此段相願候也

明治十五年五月一日

中教正戸田忠友印

大教主千家尊福殿

十六年五月二十日大教正千家尊福氏差出

開申

從五位戸田忠友謹シテ

從四位千家大教正閣下ニ言ス忠友ノ大社教務ニ從事
スルヤ嘗テ誠衷ヲ神明ニ誓ヒ終身之レ力為ニ尽ル
カセント欲スルノ志ヲ操レリ故ニ不肖下ヲ東京出張
所副長ノ任ヲ辭セスシテ負擔ニ日夜ニ斯ノ教ノ世ニ
普及シ教務旺盛ノ域ニ濟ランコトヲ希望シ以テ今

日ニ至レリ然シテ

神殿始メテ成ルヲ告ケ大祭ノ執行アリシハ猶百里ヲ行
カント欲シテ始メテ途ニ上リシカ如ク忠友等同志者
ノ尽力ス可キモ亦今日ヨリ之レヲ始ム可キ時ト謂フ可
シ由リテ豫メ此ニ意ヲ注キ以來閣下ノ一臂トモ称セラ
ル、ニ至ラニテ本心竊ニ希望セリ且忠友ノ微誠公憶ラ
ニ閣下モ亦終身愛セサル者ト洞案セラルナラン然レ
ニ圖ラサリキ今般卒然宇都宮ニ荒山神社ノ宮司ニ
任セラレタリ本意ノ安ニスル所ニ非スト雖モ官舎ハ穢
ス可カラズ敬ミテ其ノ命ヲ拜セリ然リト雖モ嘗テ心ニ
誓ヒル大社教ノ為ニ竭サント欲スル所ハ敢テ之ヲ変セ

ス神官ノ任ニ在ルモ心ハ斯ニ在リ之レカ為ニ心カヲ尽スノ道
絶エタルニモ非ス由リテ陰然斯ノ教ノ為ニ旺隆ノ方ヲ
助ケ以テ終身愛セサルノ初心ヲ遂ケ斯ノ教ノ天下ニ獨
歩特立スルヲ見セハ已マサラント欲スルナリ是レ今日
此ヲ去ルヲ以テ苟モ巧言ヲ遺シテ閣下ヲ欺クニ非ス
其ノ果シテ斯ノ言ヲ踐ムト否トハ他日ヲ待テ其ノ實ヲ
見テ之レヲ信セラレニテ請フ忠友ノ精神既ニ此ノ如
シ而モ猶一言ヲ呈スル所以ハ今般ノ拜命實ニ卒然ニ
出テ曾テ其漸ナキヲ以テ人ノ或ハ忠友ノ心ニ疑惑ヲ
措ニテヲ恐ル是ヲ以テ身ハ他ニ轉スト雖モ心ハ素ヨリ
初ノ如クナルヲ明シ或ハ忠友ヲ疑フ者下ラハ敢テ

請フ閣下ノ之ヲ以テ事友ノ為ニ題フ者ノ疑ヲ解釋
セラレニテ是レ精神ヲ吐露シテ開申スルリ已
ム可カラサル所以ナリ閣下モシ精神ハ在ル所ヲ察シ
誠意ヲ取りテ其ノ言ノ冗長無稽ナルハ累ニテ之
ヲ探テラレハ幸甚幸甚忠友再拜謹言

明治廿五年五月廿日

從五位戶田忠友印

大教正從四位千家尊福殿

右之通千家女教正ハ國中書道並出候處ナリ通大教正
内教職并信徒等ハ國民ヨリ示セラレタル由ニ付後日
爲ニ記シ置リ

部内教導職

講社役員及信徒

別紙從五位戶田忠友ヨリ開申致サレ候處其實止リ得
サルニ出ルルヲ以テ出張所副長ヲ解任スル今同氏ノ
奉仕セル宇都宮ニ荒山神社ハ則チ旧領地ニ在テ縁故
素ヨリ深リ該地ノ衆庶懇請一日ニテ又官厚リ其旨
ヲ容納セラレ遂ニ此ニ到レルナリ抑同氏ノ累年於大社
教ニ従事シ精振精勵補翼ノ功僅クテラサルハ尚
各位ノ諒知スル所ニテ既ニ東京ニ分祠ヲ建設シ將
米益共ニ斯道ヲ皇張シ期シテ旺盛ヲ候ソノ今日ニ
際シ頗ニ宮司ノ命ヲ奉シ身教職ヲ離レハ甚遺憾
ニ堪ハサルナリ然レモ猶本教ヲ信奉シ補助スル精

神ニ於テ毫モ異変ナキハ即チ閣中書中ニテ力ヲ
特ニ從來斯道ノ為致々羅勉心力ヲ尽終身之倦
克リ本教ヲ扶持スルノ誠神ノ力ヲ以テ將來福資ヲ
セラルハ信ニテ疑ガレ所ナリ然レモ前陣ノ旨ニ案
セズ部内教職及信徒ニ於テ萬一範圍ヲ越ス
アラニテ辱ヒ茲ニ一言ヲ副手此旨ヲ示謝ス
明治十六年五月 神道大社教管長 其旨
大教正千家尊福
十六年五月廿日 書面千家大教正(差) 解深願

私儀今般宇都宮二流山神社宮司拝命仕候付テ本社
教東京出張所副長擔任御解除被下度此段奉取
候也

明治十六年五月廿日

從五位戶田步友印

大教正千家尊福殿

其年五月廿日 書面千家大教正ヨリ 御返答 謹言
相渡候事

東京出張所副長

教長戶田步友

請儀大社教本流東京出張所副長相解候事

明治三十五年五月廿八日

神道大社教管長

大教正千家尊福



今般宇都宮二系山神社宮司拝命、何出張所副長相解
候得共自今猶在京中ハ出張所教務監督被遣且赴任
之地方ニ於テ本教擴張ノ爲幹旋尽力被致度此段御
依頼申候也

神道大社教管長

明治三十五年五月廿八日

大教正千家尊福印

教長戸田忠友殿

○
日中奉書一投、感謝状并目錄之品物相添、大教正
ヨリ被相渡候有左記ス

教長戸田忠友

客年出張所設立以來副長擔當勵精尽力其功勞不
少然此今因宇都宮二系山神社宮司拝命、何請、依不
得止副長相解候處既往、功勞爲道不堪感謝依テ
目錄之品通相贈候事

神道大社教管長

明治三十六年五月廿九日

大教正千家尊福印

目錄

立島惘子

巻組

別紙監督解免懇請書ヲ呈候ニ付テハ百事差迫リ居候情実有
之方一御處分遲延ニ涉リ候テハ益不都合醜ニ存本教友解ラ
生スルニ至ラント深ク痛心餘リ今日ヨリ諸事閑係ニ是扣罷在リ
謹テ殿命ヲ奉待候条布ク至急御處分奉仰候也

明治元年四月六日

賢督戸田忠友

大社教

菅長千宗尊福啟

監督解免請求

忠友儀一昨午ニ系山神社宮司持命赴任以來事々々振未斷下宇柳安歇
其他歸領知縁故有ルヲ以テ社教監督ノ命ヲ帶ビ不肖ノ願ニ本教
ヲ擴張シ神徳ヲ輝耀シ団体ノ尊嚴大備ノ要道ヲ明セシメ靈魂
歸着生充惑ヲ斷無カラシメト日夜拊膺勉勵最度ヲ團結シ同
心戮力益々教ヲ擴充シ神恩ニ答ヒト欲スル精神ニ有之然ニ福
田治郎君月歸縣以來方淺敷地塲所交換ノ傳聞ナリ又舊來村
入社ノ事ニ府旁尋問スル事アリヲ以テ再三再四招喚スルモ未ダ
適々星野宗振来リ前件諸問スル暇疎疎模稜ニ答辨アリ殊ニ福
田君行何事モ決行ノ未定友ノ耳至ニ達スル之至任者ノ事ニ付種
々紛紜ヲ醸生シ百方和解セシト盡力スル是到底目的ヲ達スル
故調理スル能ハス其痛々苦慮難在リ只自ラ短乏愚鈍最

不_レ除別紙_ニ由_テ香園_ニ存_スリ懇願書_ヲ答_テ本家_ニ呈_スル_ニ至_ル此
レ事_ハ不_レ有_ル其_レ任_地大_ニ監督_ノ命_ヲ付_シ使_テ然_レ恐_レ懼_レ爾_レ天_ノ帝_ヲ統
ラ_ス謹_テ監督_ノ名_義連_リ方_ニ解_免テ_ラリ_テ懇請_ス其_レ後_ハ願_有

明治十年四月二日

監督戸田多力

大老
符七十家尊福辰

辭職願

都生寺信

貴教_ハ信徒_ニ加_ハル_ニ或_ハ大_ニ職務_ヲ命_セラ_レ教會_ニ後_ハ右_ノ田_ニ監督_ニ
指_揮隨_ニ任_分力_ヲ尽_シ廣_ク蒙_テ厚_ニ尊_ニ也他_ノ日_ニ信徒_ノ諸願_ニ依_テ
分_ハ院_ニ連_テ及_ホキ條_々ト_メト_リ大_ニ至_リ紅_ニテ_ハヨリ遠_ニ至_リ人_ハ
ヲ收_結シ本教_ヲ盛_ニス_ルノ目_的ニ_テ從事_ス罷_ニ在_候處_ハ昨_今見_聞ス_ル并_ニ
三_ノ擧_メ廣_大地_ヲ敷_納シ仕_敷社_殿事_ヲ連_結ス_ル議_{アリ}是_レ同

司_リ美事_{ナリ}ト雖_モ未_タ一金_ノ貯蓄_無シハ必_ズ信徒_ノ其他_ノ勸_成ス_ル
非_レカハ其_レ費_ニ充_テ足_ラス信_心未_タ固_カナ_リハ勸_成願_書ヲ先_ニス_ル其_レ
信_心失_フハ明白_ニシ_テ到底_ニ本教_ヲ衰_微ラ_スモト甚_ニ痛_心ニ_地天_ノ明治
十年_{以來}本教_ヲ本部_ヲ宇_都實_ニ設_リテ廣_ク敷_納シ_テ見_ルニ_テ然_レ其_レ任_地
ニ_在リ者_ノ計畫_元所_看々_其敷_ヲ踏_ミ往_々推_進談_術ニ_地在_リ者_ハ
ニ_似タ_リ近_來其_レ類_ニニ_テ辭_面ヲ_斷リ皮_相ノ成_踐ヲ_来ス_モナ_リ上_ニ雖_モ
氏_教進_ミ主_トス_ル所_元日_ニ徒_我定_着ヲ_以テ_スル_ニ非_ハ六_條使_皮相_ノ成
跡_ヲ得_ルモ其_レ主_意ニ_非ク_モニ_テ都_生寺_ト願_ニ所_見ラ_異ス_ルニ_似
タ_リ抑_モ我_等都_生寺_ニ本教_ヲ布_カシ_テヨリ日_ニ猶_淺シト雖_モ甲_賀ヨ_リ乙_驛
ニ_及ビ丙_村ヨ_リ丁_村及_ビ續々_{入_ルテ}願_望ニ_今日_ニ至_リテ_止サ_ルモ_ハ
掌_神ノ尊_ハ更_ニモ_六ス_管ニ_公德_望ノ重_キニ_由リト雖_モ抑_モ亦_亦監督_信

君舊領情誼ニ由ラスンハス然レニ若シ德義ヲ後ニ推委ス先キスル
 時ハ心忽チ疑惑ヲ生シ瓦解ヲ来ス至ラシ是レ主任者ノ功ヲ冒濫
 シ浮言ヲ以テ彷彿ヨ計ルニ非ス深リ本教ノ為ニ過慮スルハ真情
 ナリ既ニ主任者ト目的ヲ殊ニ持論相背リテ此レニ及ニテハ盛ニ萬
 藤紡議ヲ生シ之ヲ為ニ布教ノ妨害ヲ生スルハ自然ノ勢ヒニシテ是
 又覆轍ノ戒ムヨリ鄙生等坐シテ默觀スル其職ニ背キ併セテ皆
 長公監督君ノ德義ヲ損シ逝ニ本教ノ弊面ヲ汚スニ至ラシコトヲ之
 レ忍ビ鄙生等ノ見レ所不幸ニシテ中ニカバ則チ本教ノ本意ニシテ
 見ノ罪ハ國ヨリ其ニシテ受レ所ナリ伏シテ願フハ鄙生等共情他
 無キヲ同案在ラセラレ解職ノ命ヲ賜ハリ候て間接ニ尽力候儀ハ因ヨリ
 本教ニ為ニ碍セサレ云々候間何卒願意御開局相成候様ニ共々思

願候也惶切有

明治六年四月六日

五等官ヲ不問事ハ中
 不備

中職方 藤井他ハ
 中里

中田十
 大輔及 田秀國

大社及
 後七女尊祓取

開申書

忠友謹テ愛和縣東所轄本茂出張所惣督本居聖親君ノ閣下ニ言ス當聖親
 下野分茂運策主任者事ヲ統括テ職生シ百方知熟セト微力ヲ盡スモ何カ
 調理不事能ハ事竟忠友短ヤ不學ヲ身ヲ以テ重任ニ監督人位置スルハ
 名義ヲ失ス至ル其責道ルハカラス依テ監督辭免請奉書ヲ答旨長年

家君三皇ノ護・歳可奉待ス事トナレリ折今般訪經・盛賜日尋天
明治十年神宮教本部ヲ年都宮ニ設ケル澤事ヲ權委新術ヲ生ニ時元
解ノ姿ニ至リ十教百田ノ負債ヲ生シ今日ノ衰微ヲ来ス覆轍アリ然レニ
今般を教下野分院設立ノ計畫モ其轍ヲ歸ニ至ルカ故ニ信徒中ニ能ク天ニ
不腹ヲ懷キ彼レヲ見レバ地鳴ノ如ク思ヘリ福南浦新術所有地敷地・場所ヲ擧
スルニ至リ福田治郎ノ所有地ニ至リ既ニ分院設立出願ス時七土著地・掘敷
スル・南浦新術所有地福田治郎宅地ノ番手ニ轉地スル戸坐新術地ニハニ
キヲ書出シ其後村民ノ謀リ分院敷地ヲ要領シ七土著七土坪トナシ其敷
地中階傍ノ樹木ニ抵所幸ヒ七土著ナルノ故テ最初詭ヲ掩ヒ公然テ聲囁
談話ニシ使侍ヲ喜ヲ聞ヤリ此ノ敷地要領モ獨斷實行ト思友其他ノ
耳ニ達スルニ至リ七土坪八福田地所ニハニ至リ七土坪トスルハ全リ表面

ヲ飾リ内実ハ地ノ無キヲ憂ヘ所ヨリ偽言ヲ以テ七土坪トスル所ノ意味アリ
其実ハ社初穂を其他初穂を以テ買上トスルノ詐術由確証アリ
石初穂ニ就テ生友ノ名ヲ括スモ計リ難シ又七土坪ヲ抱ホトシ銀
行ヨリ金田ヲ借り入ル・傳聞ナリ最早後日負債ヲ生シ瓦解シ来ルルノ
端緒此ノ顯ハナリ然レシ戒スル・前述べ如ク管セ包見生友等ヲ詐物ト
ハ然レテ盗シ震ハ初穂初穂新術ヲ以テ地所ヲ購求スル資トナシ
詐術其他事件ノ奉助收奉スルニ違フ又ニ・田テ熟者不ハ後
来如何様ノ軍略新術ヲ固シ終ニ奉教ノ衰微ヲ顯シメテ天ノ神種
ヲ汚スニ至リ續キテ後生友等生友ノ面目ヲ失フニ至ラント信徒等痛
心著露ノ余リ遂ニ新術ヲ生ス是レハ田園園初穂勇持職生友
書ヲ答セ生友三皇ニ原田ナリ生友ニ示シモ外斯人物トハ思ハサ

然レ臣監督ノ責又不歸ノ罪ハ進退スル所ナシ仍テ端綽紛々願
求メ啖記シ寤寐ニ存晨振臂哀ノ閣下ニ聞中ニ展幾ハ管セ君街
熟議上非常ノ英賢ヲ以福田匠匠ヨリ獻知スニ幸埒ヲ却下シ
又同令リ生願許可相成ニ下野ヲ浚謫事ハ再ヲ廃止スル意
盡テラフコトモ若シ終要ヲ通セニ至ラハ斷テ噬嗑悔在ラシ
ト深ク痛ム甚虚手足ヲ措トユニヲ知ラヌ仰希リハ望ムト思
直ニ烟臺賢考在ラシコト候也

即卒六千四百十三人

仁愛堂

大和五十四

把臂高歌金鼓

依一上卷卷十

完申書

10

志友謹テ愛知縣以東所轄生民出張所撫督奉活豊縣君ノ閣下ニ言及當地奉
教下野方設建策主任者ノ事ニ付紛紜ノ釀生ニ百方和塾セト微力ヲ盡ス何
介調査スル事能ハス畢竟忠友短又不学ノ身ヲ以テ重任ル監督位置
ニ居リ名義ヲ活ス至ル其責適ルカテス依テ監督解免諸永書管
長ノ家君ニ呈シ謹テ嚴命ヲ奉待スル事トナレリ抑今般紛紜ノ溫觴ヲ
尋ヌレハ明治十年神官教本部ヲ宇都宮ニ設クル豫專ヲ權委託術ヲ
先ニ終ニ時瓦解ニ染ミテ千數百四十員優ヲ生シ今日ノ衰微ヲ来
ス不復轉アリ然ルニ般教下野方設立ノ計畫モ其轍ヲ蹈ミ至ルカ
故ニ信徒中ニ於テモ大ニ不腹ヲ懷キ彼ヲ見ルニ地喝ル外ノ患ヘリ又奉歲
五ヶ坪畝地ノ場所ヲ探索スレハ全ク福田庄郎所有地ニナリ既今設
立出願スル時主者地ノ掲載スル當宇都宮四ヶ町田庄郎宅地ノ考考ニ

テ畝地ハ八幡村ノ舊地ニハナキヲ書出シ其後村民ト謀リ万段敷地
ヲ交換シ五ヶ坪ヲ七ヶ坪トシ其詭ヲ中路傳樹木根ニ所著トシ
差ナリヲ以テ最初詐ヲ掩ヒ公然大聲噂々談話シテ僥倖ヲ喜ぶ間
々此ノ敷地交換モ獨斷專行ト事後其他ノ耳ニ達ス知シ七ヶ坪モ
福西地所ニハナキ五ヶ坪ヲ七ヶ坪トスルハ全ク表面ヲ飾リ内實ハ地無
キヲ愛ル所ヨリ偽言ヲ以テ七ヶ坪トスル所ニ思味ヤリ其實ハ社和
穂金其他初賤金ヲ以テ買上ケントスルノ詭術ノ由確証ヤリ右初賤
金就テハ舊友ノ名ヲ汚スヤモ計リ難シ又七ヶ坪ヲ換当トシテ銀行ヨリ金
四ヶ借入ル傳聞ヤリ最早後目負倭ヲ生シ五兩ヲ未ス諸跡些ニ顯ハ
レタリ恐ヒシ戒ムニ前述べタル無任モ君等事友等詭欺シ表ハ畝地ノ
差トモ意ハ初賤社積利金免テ土地所ヲ購取スル資トスルノ詭術